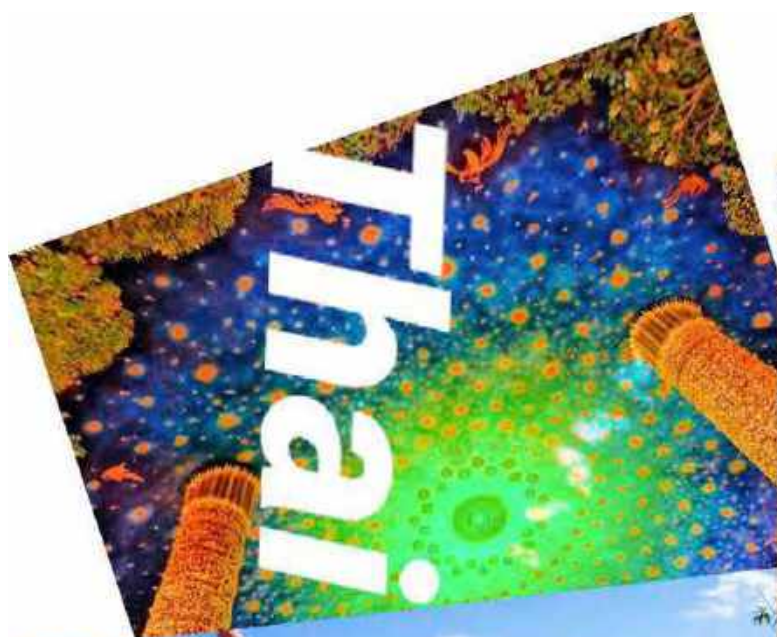




調査報告書



～目次～

代表挨拶	1
メンバー紹介	2
TP9 期の VISSION・MISSION	4
事前研修スケジュール	5
渡航スケジュール	7
ポロシャツ紹介	8

第一部

思い出すごろく	10
---------------	----

第二部～調査企画～

娯楽班	26
格差班	31
暮らし班	35
泰日班	40

第三部～交流企画～

縁日（農村*）	45
運動会（農村）	51
パフォーマンス（農村・KUSMP）	58
日本・和歌山大学紹介プレゼンテーション（農村・KUSMP）	60
英語ディスカッション（KUSMP）	63
サティカセ交流（KUSMP）	65
フリーマーケット（バンコク）	68
企業見学（チョンブリ）	70

第四部

個人体験記.....	73
VISSION・MISSION 達成度.....	82
総括コメント	83
編集後記.....	84

* 「農村」は農村の学校(Maehopra Wittayakom School)、「KUSMP」は都市の学校(Satit Kaset MP)のことを指している。

代表者挨拶

初めまして。和歌山大学システム工学部2年生（2020年度6月現在）の戸田達也です。この度タイ・プログラム*9期の代表を務めさせていただきました。そして、私たちは2020年2月11日～2月23日の13日間にわたりタイに渡航しました。

まず、EDFの皆様、藤山先生、ティーチングアシスタントの叶望さん、脩太さん（8期生）をはじめとしたタイ・プログラムに関わって下さり、多大なるご支援をしてくださった方々に対して感謝の気持ちを述べたいと思います。私たち全員がタイへの渡航が初めてで不安でいっぱいだったのですが、EDFの皆様は温かく迎えてくださりとても安心できました。また、活動をする上で欠かせない通訳という仕事をしてくださりとても感謝しています。そして藤山先生には渡航中はもちろん、事前講義、事後講義と1年間を通じて私たちを常に支えてくださいました。あくまで私たちが主体的に学べるように裏側から支えてくださり、しかし道が逸れそうになった時には修正してくださいました。また、みんなのお父さんの存在でもあり、時には楽しく、時には真摯に私たちに接してくれます。藤山先生なしではタイ・プログラムは成立しないと思います。そして最後にティーチングアシスタントのお二人は藤山先生同様に、裏側から常に私たちを支えてくださり、そして会議では的確なアドバイスをくださいました。このようにタイ・プログラムは私たちだけではなく様々な方からのご支援があって成り立っています。本当に感謝してもしきれません。このプログラムで得られた経験を活かしてこれからも日々精進します。本当にたくさんのご支援ありがとうございました。

次に、タイ・プログラムへの参加を検討している皆様へ。

「参加して後悔はないので、迷っているならぜひ入ってください！」

タイ・プログラムを通じて得たものはたくさんありますが、一番は「出会い」だと思います。EDFの皆様、藤山先生、ティーチングアシスタントのお二人や、タイで交流した高校生たちなど出会いがたくさんありました。そしてなんとといっても9期生のみんなです。大学生活で一つの目標に向かってここまで一丸となってみんなで頑張るということはあまりないのではないのでしょうか。そして、みんなが未来に希望を持っていて、勉強意欲が高い人達なのでとてもいい刺激をもらえます。本当にみんなに出会ってよかったと心の底から思っています。最後にも一度だけ言いますが、迷っているなら入ってください！本当に一生に一度の記憶に残る思い出を作ることができます！

そして最後にタイ・プログラム9期生のみんなへ。リーダーらしいことなんて何もできなかったけど、文句も言わずについてきてくれてありがとう。僕が悩んでいるときや困っているときには、嫌な顔一つせず相談に乗ってくれたこと、頼りない僕を支えてくれたこと、すべてに感謝してもしきれません。みんなと出会えたこと、タイ・プログラムに参加できたことを誇りに思っています。これからも仲良くしましょう！

和歌山大学システム工学部2年生 戸田達也

* 本報告書において、「タイ・プログラム」を「タイプロ」・「タイプログラム」・「TP」と表記している箇所があり、これらは「タイ・プログラム」と同義である。また、「Satit Kaset MP」を「KUSMP」・「サティカセ」と表記している箇所があるが、これらは「Satit Kaset MP」と同義である。

TP9

Members Introduction



EDF INTRODUCTION

EDF は The Education for Development Foundation の略称で、1987 年 11 月設立以降、奨学金制度や健康促進、農業開発、学生の教育支援、留学の支援など様々な支援を行っている教育 NGO です。交流先の学校との連絡、通訳などタイ・プログラムを支えてくださり、大変お世話になりました 

PLOYさん 

渡航前の各微調整でお世話になりました！

JOKEさん 

日本語が上手で冗談を言ったりタイ語を教えてもらったりして楽しませてくれました！

CHATさん 

笑顔が素敵！
私達を楽しませてくれました！

I am excited to be at ICONSIAM,
Thailand's iconic landmark
and

ありがとうございました！！

RUNGさん 

表情豊か！
フレンドリーで一緒に楽しんでプログラムに参加してくれました！

TOYさん 

笑顔が素敵！
お姉さんの存在でプログラムを盛り上げてくれました！

POPさん 

微笑んで私達を見守ってくれました！
POP さんの笑顔に終始癒されました！

TP9 期の Vision&Mission

私たち TP9 期生は、タイ・プログラムにおける活動をより良いものとするために Vision と Mission を定めた。Vision とは、組織が目指す将来の姿を具体的に明示したものである。また、Mission とは、Vision を達成するための任務や使命を具体的に明示したものである。Vision と Mission を定めた目的は、9 期全員が共通認識を持ち、同じベクトルを向くためである。

TP9 期が定めた Vision&Mission は以下に示す通りである。

【Vision】

『楽しかった！』だけでは終わらせない！

【Mission】

- 1 何でも学び、吸収する
- 2 意見が一方通行にならないようにキャッチボールする
コミュニケーション
- 3 途中であきらめない、やりきることを大切に

私たちは、これらのことを意識しながら事前・事後学習、渡航を行った。この Vision・Mission の達成度報告は 80 ページに示してあるので、そちらも併せて確認していただきたい。

Vision・Mission を設定することでプログラム終了後に自分たちがどうありたいかを明確にし、それを達成するための行動をとることができた。したがって、このプログラムに取り組む中で Vision・Mission を設定することは、非常に意味のある事である。



事前研修スケジュール 10月～2月

10月から、毎週水曜日に合計15回の事前研修を行った(後期教養科目「国際理解とフィールドスタディーⅠ」)。
事前研修では主に、タイに関する学習、そして現地で行う交流企画や調査企画の事前準備を行った。

- ・8月1日 TP9 期初顔合わせ
- ・10月26・27日 第1回合宿(大阪国際ユースホテル)

TP9期の目標設定や、交流企画・調査企画の担当の決定。そして、アイスブレイクやBBQなどを通じて仲を深めた。



- ・1月25・26日 第2回合宿(秋津野ガルテン)

タイ渡航に向け、各企画のリハーサル・最終確認を行った。



講義	日時	議題
顔合わせ	2019 年 8 月 1 日	・ 自己紹介 ・ 夏休み中の課題の説明
第 1 回	10 月 2 日	・ コラージュの発表 ・ 連絡事項
第 2 回	10 月 9 日	・ TP8 期、9 期 懇親会
第 3 回	10 月 16 日	・ 夏休み課題の発表① ・ 連絡事項（英文プロフィール、パスポート）
第 1 回合宿	10 月 26 27 日	・ vision と mission の設定 ・ 調査テーマ（暮らし班、格差班、娯楽班、泰日関係班）とその担当の決定 ・ 交流企画（縁日、運動会、パフォーマンス、サティカセ交流、和大紹介）とその担当の決定
第 4 回	10 月 30 日	・ 夏休みの課題の発表② ・ 調査企画書、交流企画書について ・ 幹部決め
第 5 回	11 月 6 日	・ 調査班進捗確認（暮らし班、泰日関係班） ・ 交流企画進捗確認（サティカセ交流、縁日、運動会） ・ 英語ディスカッションについて
第 6 回	11 月 13 日	・ 調査班進捗確認（格差班、娯楽班） ・ 英語ディスカッションテーマとグループ決定 ・ 交流班進捗確認（和歌山紹介、パフォーマンス）
第 7 回	11 月 20 日	・ 調査班進捗確認（暮らし班、泰日関係班） ・ 交流企画進捗確認（縁日、運動会、サティカセ交流） ・ フリマ進捗報告
第 8 回	12 月 4 日	・ 調査班進捗確認（格差班、娯楽班） ・ 交流企画進捗確認（縁日、運動会） ・ 企業見学 目標、質問決定
第 9 回	12 月 11 日	・ 調査班進捗確認（暮らし班、泰日関係班） ・ パフォーマンス、和大紹介、フリマ進捗確認 ・ ポロシャツのデザインについて
第 10 回	12 月 18 日	・ 調査班進捗確認（格差班、娯楽班） ・ 交流企画進捗確認（縁日、運動会、パフォーマンス、サティカセ交流） ・ フリマ、和大紹介進捗報告 ・ ポロシャツのデザイン決定
第 11 回	2020 年 1 月 8 日	・ 調査班進捗確認（暮らし班、泰日関係班） ・ 物品購入確認
第 12 回	1 月 15 日	・ 調査班進捗確認（格差班、娯楽班） ・ 英語ディスカッション内容確認 ・ 合宿での動きの確認 ・ 保険と OSSMA の確認 ・ ホームステイの決定
第 13 回	1 月 22 日	・ 調査班進捗確認（泰日関係班、娯楽班） ・ 交流企画進捗確認
第 2 回合宿	1 月 25 26 日	・ 縁日、運動会、パフォーマンス、フリマのリハーサル ・ パフォーマンス、ソーラン節の練習 ・ 和大紹介の動画鑑賞
第 14 回	1 月 29 日	・ 調査班アンケートに関する確認 ・ 各企画班の内容確認 ・ リフレクションシートの説明 ・ 持ち物の確認

渡航スケジュール

2月11日	チェンマイ	関西空港出発 オリエンテーション in Suan Sirin Restaurant
2月12日		Wat Jet Yod、Wat Ton Kain、Doi Mon Jam Pongyang Jungle Coaster Zipline Camp&Resort 見学
2月13日	Maehopra Wittayakom School	Maehopra Wittayakom School 到着 Welcome Ceremony 日本・和歌山・和歌山大学プレゼンテーション タイの匂い袋(Sachet Bag)作り 縁日 川下り in Bua Tong Waterfall Park-Fountain of seven colors
2月14日		タイの食べ物とデザート作り Maehopra Wittayakom School の敷地を散策 運動会、パフォーマンス Farewell party
2月15日		托鉢体験 生徒たちとお別れ会
		チェンマイ
2月16日	バンコク	バンコク到着 自由時間
2月17日		DAIKIN 企業見学 Wat Paknam Bhasicharoen (BKK)
2月18日		調査活動 アートギャラリー(Warehouse 30) 見学、ICOMSIAM 見学 フリーマーケット
2月19日	サティカセ MP (ホームステイ)	サティカセ MP 到着 フラワーアレンジメント、ソーラン節 ホストファミリーとの対面式 ホームステイ
2月20日		日本人講師のお話、英語ディスカッション パフォーマンス、タイの染め物体験、タイの伝統衣装試着
2月21日	バンコク	Wat Yai Chai Mongkol、Wat Maha That、 象乗り体験 in Elephant camp ディナークルーズ in Chao praya River
2月22日		What Phai Rong Wua、Ladmayom Floating Market 見学 自由時間
2月23日		EDF の皆さんとお別れ ドンムアン空港発 関西空港着



ポロシャツ

阪中梨乃 角野栄里

1. 概要

渡航中にメンバーが着用するポロシャツの作成を行った。インターネット等で様々なデザイン・画像を参照しながら班で話し合い、作成したいデザインのイメージを固めた後、タイの文化などを考慮してポロシャツのデザインを考えた。注文する店舗についてはインターネット上や先輩方の注文店舗を参考にし、ポロシャツの種類や色についてはタイプロメンバー全員に案を提示し（図1）、多数決により決定・注文した。



図 1

2. 結果

完成したデザインは右の図の通りである。（図2）波は、葛飾北斎の『富嶽三十六景』を参考に日本をイメージし、日本を超え、時には荒波を楽しむように困難を乗り越えながら、タイから光る何かを持ち帰りたいというメッセージを込めた。タイの国獣である象の鼻先は、タイでも最も縁起の良い数字とされており、タイ・プログラム当期の数字である ๙ (9) をモチーフとしている。

費用は、1枚 1721 円、1人当たり 2枚なので 3442 円となった。

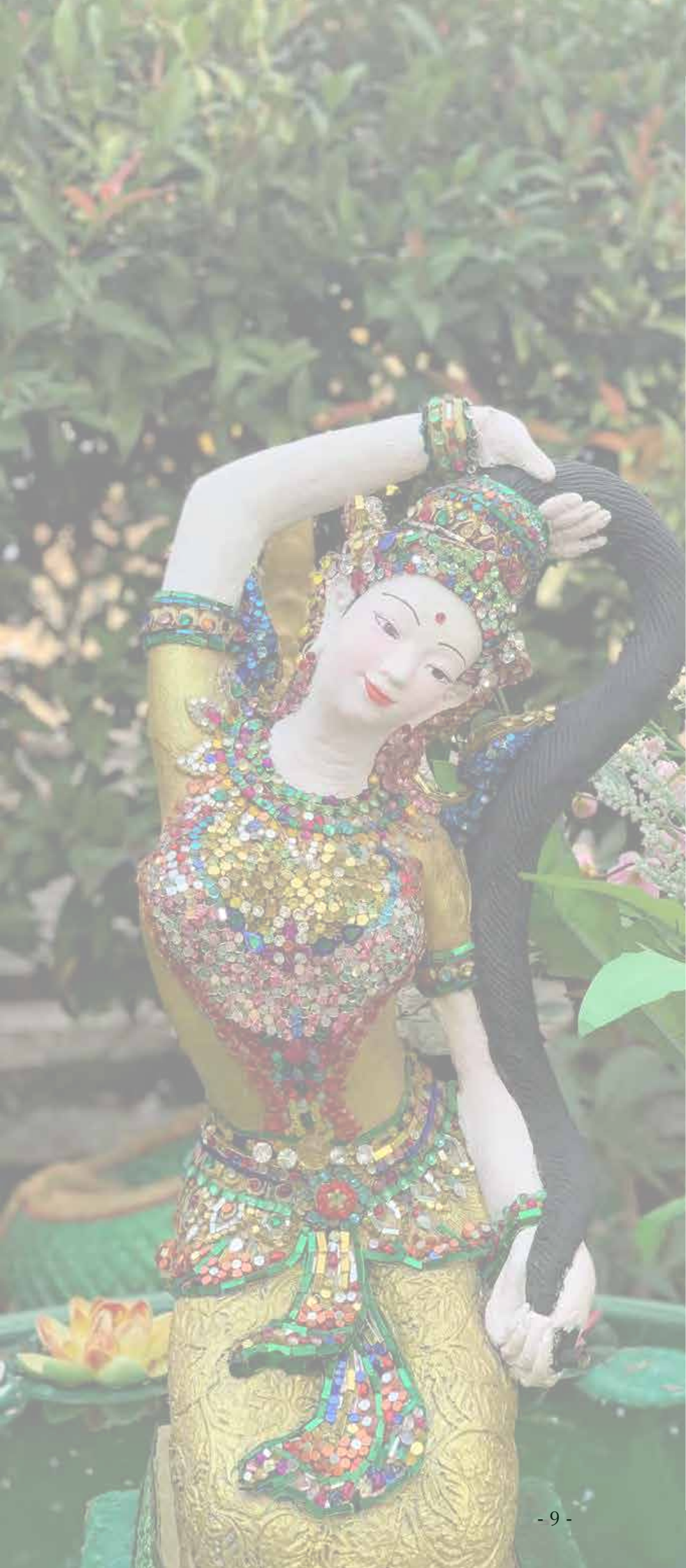
なお、本報告書の表紙のデザインにも採用されている。



図 2

3. 改善点

なかなかイメージが固まらず、デザインにかなりの時間を要した。案を出すだけでなく、一つ一つのデザインや発想からイメージを固めていくという作業がより必要であったと思う。また、イラストのデザインの段階では全てアナログでの作業であったので修正等に時間がかかった。

A statue of a Thai dancer, likely a Nang Yai, is the central focus. The statue is adorned with intricate gold and colorful beadwork, wearing a traditional Thai costume. It is posed in a graceful, slightly arched position. The background is a lush garden with green foliage and a few pink flowers. The right side of the page features a semi-transparent white box containing text.

第一部

～思い出すごろく～

第一部は、TP9 期のオリジナルページとなっています。9 期の思い出が詰まった「思い出すごろく」をぜひお楽しみください。

タイプロ思い出すごろく

★スタート★



第一回合宿！話し
合いや BBQ を通し
て仲が深まった！

タイプロのインス
タを開設！魅力を
たくさん発信する
ぞ！



第二回合宿！リハ
ーサルをして渡航
に備えた！



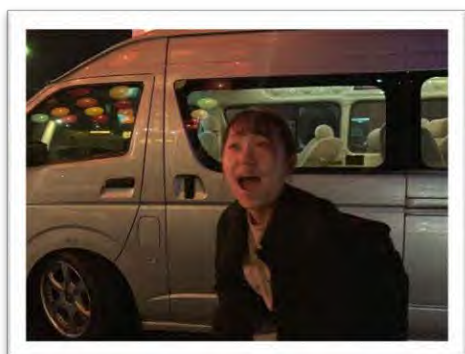
2 / 1 1

いざ！タイへ！
初めてのタイ料理
は刺激的だった～



タイに到着！興奮
しすぎて外にでた
数人空港の中戻れ
ず締め出される。

Love me Feed me
カフェで弾き語り
を聞く。ずっと聴
いていたい・・・



あゆき、
スマホをなくす
(あちゃ)

2 / 1 2

木でできたジェット
コースターで
山を一気に下り、
壁に衝突！



チェンマイで夜の
お買い物！ナイト
マーケットはキラ
キラで楽しい！

りょうだい、
マンゴーに感動し
て貢ぐ
(2 マス戻る)



初めてのタイパンツを
早速試着！あれ…
パジャマ姿か戦時中の
人にしか見えない。



2 / 1 3

盛大なウェルカム
セレモニーに
感動！



一生懸命準備して
きた縁日の成功に
も感動！！



星空に感動！！
ポエム部結成！？



冷たい冷たい！
お湯よ頼むから出
てくれ…





2 / 1 4

カラフルなブアロ
イボール！
いろいろな形を
作った！



運動会とパフォーマン
スでは、当日変更があ
りつつも力を合わせて
成功！

パフォーマンスで
使うけん玉を忘れ
た2人が謝罪会見
を行う。



夜のろうソクで
ライトアップされ
たハートに感動！♡





2 / 1 5

寂しいお別れと
農村の子供たちの
温かい心に
たくさん涙！



傘づくり！
みんなの個性が溢
れていた！



昼ごはん、
めっちゃ豪華！！
（3マス進む）



たつやとくるみの
熟年夫婦感！？



2 / 1 6

バンコク到着！
タイプロ後半
スタート★



初めての電車！
扉閉まるの早すぎて
置いていかれる…

ライトアップされ
たお寺はとてもき
れいだった！



夜の街を散策♪
指輪を買って大人
のオンナを目指す
(笑)



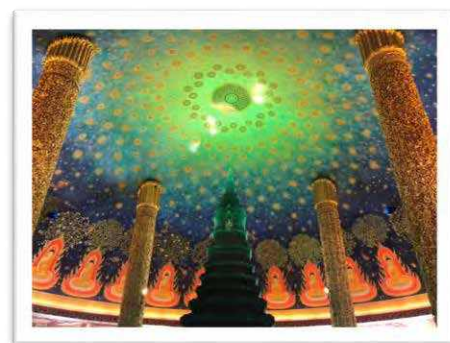
2 / 1 7

ダイキンで企業見
学。タイで働く日本
人の貴重なお話をた
くさん聞いた！



フードコートでお
昼ご飯！お腹いっ
ぱい…
(1回休み)

幻想的なワットパ
クナムを見学。
360度カメラで写真
撮りまくった！



夜はホテルのオシ
ャレなテラスで素
敵なディナーを堪能♡

2 / 1 8

朝から調査活動を
頑張った！達成感
半端ない！
(2マス進む)



タイのショッピング
モールを楽しん
だ！



夜はフリマで一致
団結！まやの涙は
感動もん



フリマの後は自由
にご飯♪
みんなで虫を食べ
たよ… (1回休み)



2 / 1 9

サティカセの生徒に
ソーラン節伝授！



タイの挨拶を学ん
だ！種類の多さに
びっくり

お供え物のお花を
作ったよ！
みんな上手！



ホストマザーによ
るポージング講座
を受けたなつめと
あゆき（笑）



2 / 2 0

伝統衣装は想像と
違ってびっくり！
1枚の布でズボンを
作るのはすごい！



ふーjee、はしゃぎ
すぎてサティカセの
廊下でずっこける
(1回休み)



サティカセの生徒と
英語ディスカッショ
ン！生徒の英語力が
すごすぎた…



タイの伝統的な
染め物体験！
個性が溢れる！



2 / 2 1

サティカセの生徒とお
別れの日。サプライズ
の動画と歌には
感動させられ涙が…



象に乗る貴重な
体験を！象の迫力
に圧倒される！
(2マス進む)



タイのお店で
オシャレな帽子を
ゲット！



船の上からの景色
は絶景！
みんなで沢山写真
を撮った！



2 / 2 2

とにかくリアルす
ぎる地獄寺に圧倒
された！



ふーじーのカメラ
をゲットした
さゆかカメラマン
参上！



動物愛に溢れる
あかねと
りょうだい！



水上マーケットで
タイの屋台を
身近に感じた！



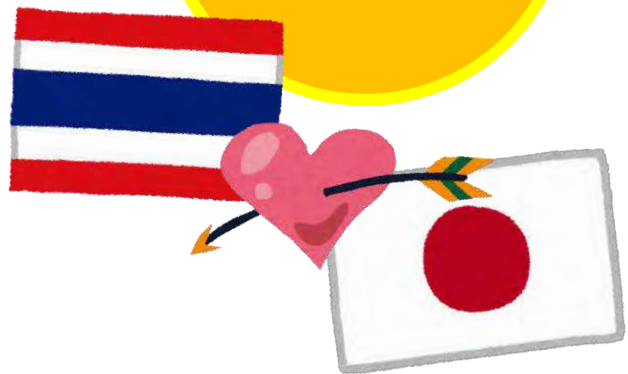
2 / 2 3

ついにタイプロ

最終日！

あっという間の

13 日間だった！



タイで EDF さんと

お別れ。とても

寂しかった…



日本到着！

日本の空港の綺麗

さを実感（笑）



タイでの経験をこ

れからの生活に

活かすぞ！

（1 マス進む）





思い出に浸る毎日…
エモい動画を作るメンバーが続出！？

渡航での学びをコ
ラージュで表現！



全員の想いがこもっ
た報告書が完成！



ゴール！！



この QR コードを読み取って出てきたサイコロの図を組み立てて遊んでみてね！



第二部

～調査企画～

タイ・プログラムでは、4人1組の班を作り、タイに関係する事柄についてそれぞれの班で調査テーマを立て、調査を行ってきました。各班ともに事前調査と現地調査を行い、その結果をまとめています。

音楽文化からみるタイの社会的変容

為沢友月 阪中梨乃 角野栄里 長谷川夏芽

1. 調査目的

タイ人・タイ社会にとって音楽は、どういう位置づけなのか、タイ社会とどのような関わりがあるのかを明らかにする。

2. 背景（なぜこの調査をしたのか）

娯楽は日々の生活で私たちと深く関わっている。私たちの生活と切っても切れない関係である娯楽分野の中でも音楽分野に着目したのは、音楽はその場所での社会的背景に大きくつながっていると考えたからである。例えば、ある音楽が大ヒットするのはその音楽を好む個人が多かったことだけでなく、社会的にその音楽を好む人が増える状況であったことも原因の一つであると私たちは考えた。このように、音楽の社会的位置づけを知ることが対象の地域の人々や社会を知るための有効な手段であると考え、この調査を行った。

3. 調査方法

(1) 事前調査

本やインターネットを使ってタイ社会やタイ音楽について調べた。

(2) 渡航中

バンコクで通行人に声を掛け、アンケート用紙に記入してもらった。4人で分担し、様々な場所で調査を行った。

4. 調査結果・分析

(1) 事前調査

① 伝統音楽について

タイ国内の伝統音楽には、移り変わる時代の中で、その役割が変化してきたものがある。

タイ北部に位置する、ナーン県 N 村には特色的な音楽文化に「カプ・ルー」といわれるものがあった。カプ・ルーの役割は守護神儀礼であった。しかし、1980 年代にその役割は消滅し、90 年代からカプ・ルーは、婦人会のメンバーが子孫の幸福を祈るために行うものへと変化した。

また、タイの伝統的な音楽文化に「モーラム」というものがある。モーラムは長編物語歌で、冠婚葬祭、年中行事、宗教儀礼などの際に用いられ、その時々に応じた歌が演奏されてきた。しかし、グローバル化が進む中でその役割は変化する。グローバル化の影響を受け、タイ国内の地方地域でも「脱地域化」「商品化」がうたわれるようになった。脱地域化とは、文化的表現が境界を越えて流通しながら読み替えられていく状況をいうが、モーラムもその風当たりを受け、役割が変わっていく。2000 年代以降、モーラムは CD や DVD への商品化が進み、元の表現から、「売れる旋律」へと表現が変化した。また、地域外へ移動した人々が故郷を懐かしむための「伝統文化」として位置づけられ、「伝統懐古主義」を誘導するような商品として流通したということがうかがえる。

このように、伝統音楽は時代と共に衰退・再編してきたのである。

(福岡まどか・福岡正太,『東南アジアのポピュラーカルチャー アイデンティティ・国家・グローバル化』,スタイルノート, 2018, 108p, 382p)

②都市民俗リミックス文化について

一見、文化の伝統的・民族的要素は、欧米を中心としたグローバル化によって、世界で一律化されたかに見えた。アジア現代文化も「欧米のコピー文化」と誤解されていたことはその影響が大きいだろう。しかし、アジアは独自の文化をそれぞれの地域で開花させた。それが都市民俗リミックス文化である。コピーを単なるコピー、例えば原型同士を混ぜ合わせるだけでなく、そこに創意工夫をくわえた末、「新たなものが作り出された」、そんな意味合いが都市民俗リミックス文化にはある。つまり、元あるものと新たに取り入れるものを混合させ、より良い文化を作っているということだ。

ここで私たちは、あらゆる海外の音楽を取り入れた、海外とタイの音楽の融合文化である都市民俗リミックス文化の一つのタイポップを、タイ人は主に聴いていると推測する。

(亜洲奈みづほ,『「アジア」の世紀—新世代が創る越境文化』,中央公論新社, 2004, 68p~74p)

③タイのグローバル化とその原因について

伝統音楽の形の変化や都市民俗リミックス文化などの新しい文化の誕生にはタイ社会の変化が関わっていた。その中でも音楽文化の変化に大きな影響を与えているのがグローバル化である。では、タイのグローバル化はどのようにして起こったのか。タイのグローバル化には、バンコクの都市化が深く関わっている。バンコクを取り巻くデルタ地域(三角州や河口に近い地域)は人々の移住には適さない地域であり、19世紀前半には人口も5万人ほどであった。しかし1855年に英国と結んだボーリング条約が王室の独占貿易に大きな打撃を与えたことにより、新たな財源の確保のためにバンコクのデルタ地域の開拓が始まり、急速なバンコクへの人口移動が始まったのである。しかし、労働力が都市の雇用能力を超えたことや分業体制が整っていなかったことなどが原因となり、バンコクは過剰都市化してしまう。その解決策となったのがグローバル化であった。海外企業という資本を受け入れ、海外という市場を得ることでタイは分業体制を整えることができ、過剰都市から脱却することができたのである。

(大泉啓一郎,『消費するアジア—新興市場の可能性と不安』,中央公論新社, 2011, 34p~66p)

④事前調査から予想できること

文献より、伝統・民族音楽は衰退、再編していることが分かる。よって、伝統音楽を日頃から聞いている人は少ないと予想した。

またタイではグローバル化が進んでおり、音楽文化に関しても海外に影響されていることが予想される。一方、都市民俗リミックス文化のように海外の文化を自国の文化と融合してタイ人好みのタイらしい文化を作っているという文献もあり、音楽文化においても海外の影響を受けつつ、自国の文化と織り交ぜながら発展しているのではないかと予想した。

(2) アンケート結果

アンケートでは以下の8問を質問した。なお、アンケート作成は以下のサイトを参考にした。

(一般社団法人全日本レコード協会 音楽メディアユーザー実態調査 2020年4月更新

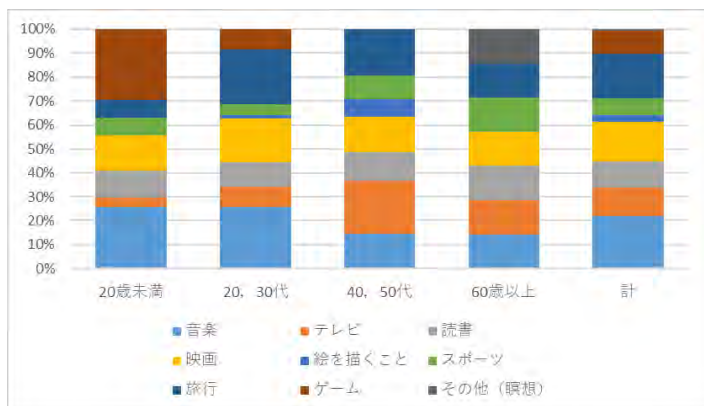
<https://www.riaj.or.jp/f/report/mediauser/>)

①あなたはタイに住んでいますか？

はいと答えた人が 121 人、いいえと答えた人が 0 人であった。

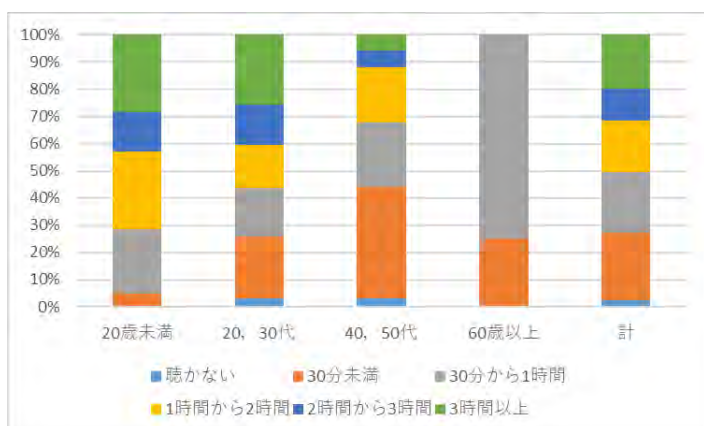
②年代は次のうちどれですか？

20 歳未満が 21 人、20・30 代が 62 人、40・50 代が 34 人、60 歳以上が 4 人となった。なお調査分析において、60 歳以上の母数は少ないため触れないものとする。



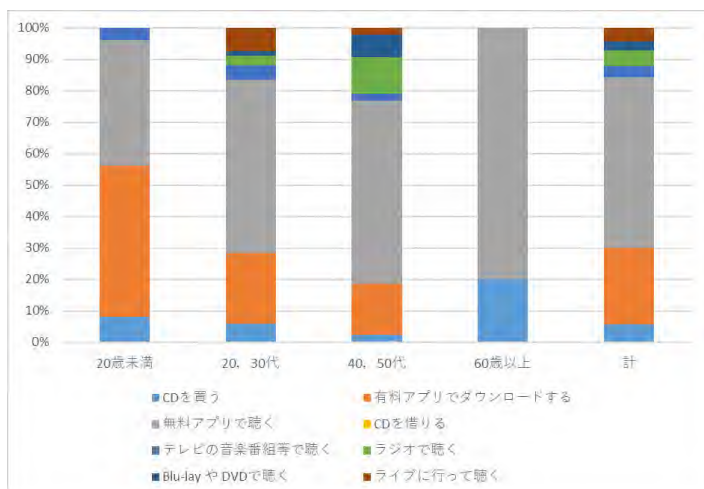
③娯楽の中で以下のどれが一番好きか？

アンケートの中で、娯楽の中でどれが一番好きかという質問を行った。結果として、「音楽」と答えた人の割合が最も多く、全体の 22.0%であった。旅行の割合が 18.6%、映画の割合が 16.6%と続いた。この結果から娯楽の中で、音楽の位置づけが高いということが分かる。



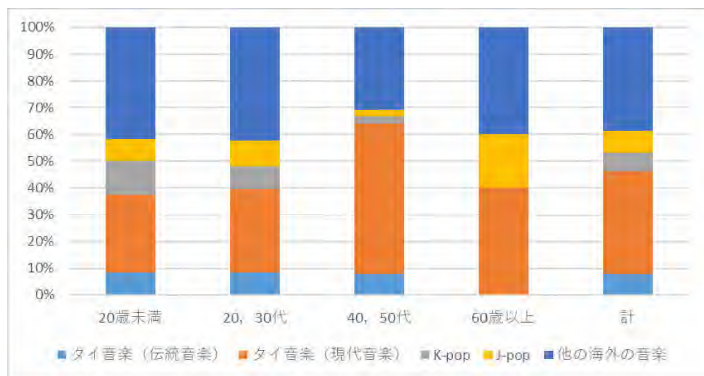
④一日あたりどのくらい音楽を聴くのか？

どの年代も音楽を全く聴かない人はほとんどいないことがわかる。このことから、音楽はタイの人々の生活と深く関わっているのではないかと考えられる。20 歳未満、20・30 代は比較的長時間（3 時間以上）聴く人が多いため、若い人の方が音楽に常に触れているのではないだろうか。



⑤主な音楽を聴く手段は？

無料アプリで聴く人が最も多く、その次に有料アプリで聴く人が多いことが分かった。CD で聴く人は少なかったため、日本と同じようにストリーミングサービスや配信サービスの普及によって CD 離れが進んでいると考えられる。このことは、グローバル化によるワールドワイドなアプリの普及で世界の音楽も身近に聴けるようになったことが関係している。（音楽のグローバル化）

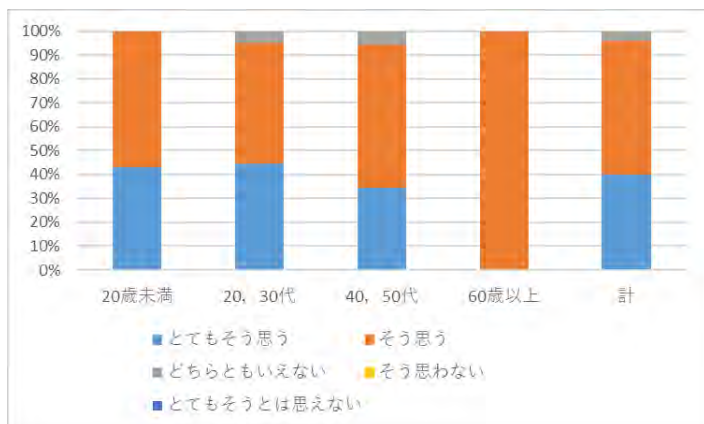


⑥日頃、視聴するのは主にどれか？

グラフから全体的にタイ現代音楽とその他の外国の音楽を聴いている人が多いと読み取れる。しかし、タイ音楽（伝統・現代）は46.0%、海外の音楽（K-pop・J-pop・その他の海外）は54.0%と、比較的、海外の音楽を聴いている割合が多かった。30代までの若者は海外の音楽を聴く傾向にあるようだ（60歳の母数は少ないので考慮していない）。

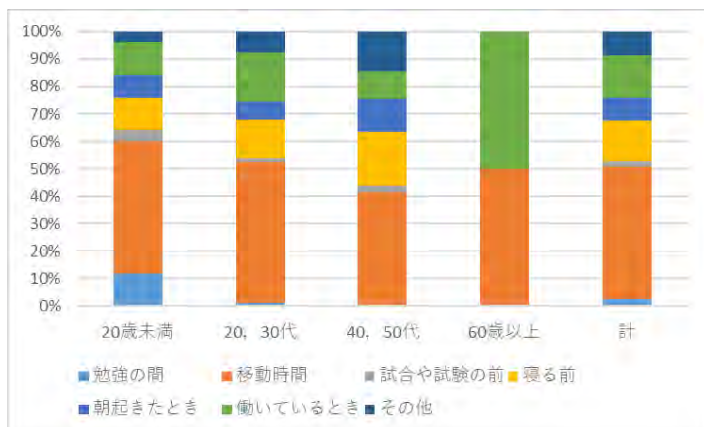
海外の文化を独自にリミックスした文化が発展していると予想していたため、自国の音楽を聞く人の割合が大きいという結果になると予想していたが、実際は海外の音楽を聞く割合が大きかった。日本においては、海外の音楽よりJ-POPを聞く人の割合の方が大きく、タイのグローバル化による影響は日本よりも大きいと考えられる。

伝統音楽に関しては都市であるバンコクの調査においても一定数聴く人がいたが、事前調査で調べた際に、YouTubeなどに動画が掲載されていることが確認できており、⑤の調査の音楽をダウンロードして視聴する人が多いという結果からも、IT化などが伝統音楽を聞くことを容易にしておき、社会の変化が音楽文化に影響していることが分かる。



⑦あなたにとって音楽は生活の一部として欠かせないものですか？

ほとんどの人が「とてもそう思う」、「そう思う」といった肯定的な意見で、否定的な意見の人が全くいなかった。このことから、タイ人にとっては、音楽が生活の一部として高い位置づけにあると言えるのではないだろうか。



⑧特に次のどのシチュエーションの時に音楽を聴きますか？

全体を見ると圧倒的に移動時間に聴いている人が多い。タイでは交通渋滞などで通勤や通学時間が長く、③の質問で得られた長時間聴いている人が多いという結果と関連があることが予想される。工作中に聴いている人が全体で2番目に多いことが気になる点であるが、詳細は分からなかった。

5. 考察

《音楽の位置づけ》

私たちが渡航した約2週間の期間で、レストランや海辺、タイの街中あらゆるところで音楽を聴いた。街を歩けば、生活の中で当たり前音楽が存在していることが分かる。またアンケート中の娯楽の中で一番好きなものを聞いた③の質問では、全体的に音楽の占める割合が高く、音楽が高い位置づけにあることが分かる。1日に音楽を聴く時間を聞いた④の質問では、聴いていない人が約2%と少なかったのも、ほとんどの人が毎日音楽を聴いていると分かる。音楽は生活の一部かどうかを聞いた⑦の質問では、「とてもそう思う」、「そう思う」と答えた人が約96%と高く、「どちらともいえない」と答えた人が約4%と否定的な意見が全くなかった。この結果からも、娯楽の中で音楽は高い位置づけにあることが分かる。

《タイ人・タイ社会と音楽の関わり》

事前調査からは、伝統音楽は時代の変化とともに衰退し地域のものではなくなり、再編して商品化されてきたことが分かった。また、グローバル化・IT化によって世界の文化が国境を越えて入ってきた結果、都市民俗リミックス文化のように新たな文化や音楽が創り出されたことから、社会の変化が音楽に大きな影響を与えていることが読み取れる。アンケート調査の主な音楽を聴く手段を聞いた⑤の質問では、無料アプリや有料アプリで聴く人が多く、IT化によって今まで以上に気軽に音楽が聴けるようになったことが分かる。また、この影響は日頃どのような音楽を視聴しているのかを聞いた⑥の質問にも関係しており、海外の音楽を聴く割合が高いのはIT化によるアプリの普及が影響しているからだと言える。以上の点から、タイ人・タイ社会と音楽の関わりについては、グローバル化やIT化などの社会の変化に影響されながらも、独自の文化にそれらを取り入れて変化し、発展してきたということが分かった。

《これから》

時代の移り変わりとともに音楽のあり方は変化してきた。その変化によって形を変えながらも、音楽は常に人々の支えとなり、音楽を心から楽しむ人々の気持ちは変わらなかったのではないだろうか。今後も音楽は、時代や社会の変化に影響を受けながらも、人々の生活に寄り添う存在であり続けるだろう。

なぜタイは日本よりも男女間の経済格差が小さいとされているのだろうか

歳弘爽由花 田岸来実 中橋遼大 杉本愛

1. 調査目的

タイと日本の経済分野における男女格差を比較し、その差の原因を明らかにする。

2. 調査背景

世界経済フォーラムの『Global Gender Gap Report 2020』によると、タイのジェンダーギャップ指数の総合順位は153カ国中75位である。そのうち経済分野の指数のみでの順位は22位となっており、他の「教育」、「健康・生存」、「政治」の分野よりも顕著に高くなっている。それに対し、日本のジェンダーギャップ指数の総合順位は121位であり、そのうち経済分野での指数は115位とタイとの差は歴然である。この差の原因を明らかにするため、格差班では男女の経済格差についての調査を行った。

(World Economic Forum『Global Gender Gap Report 2020』, pp201, pp333)

3. 事前調査

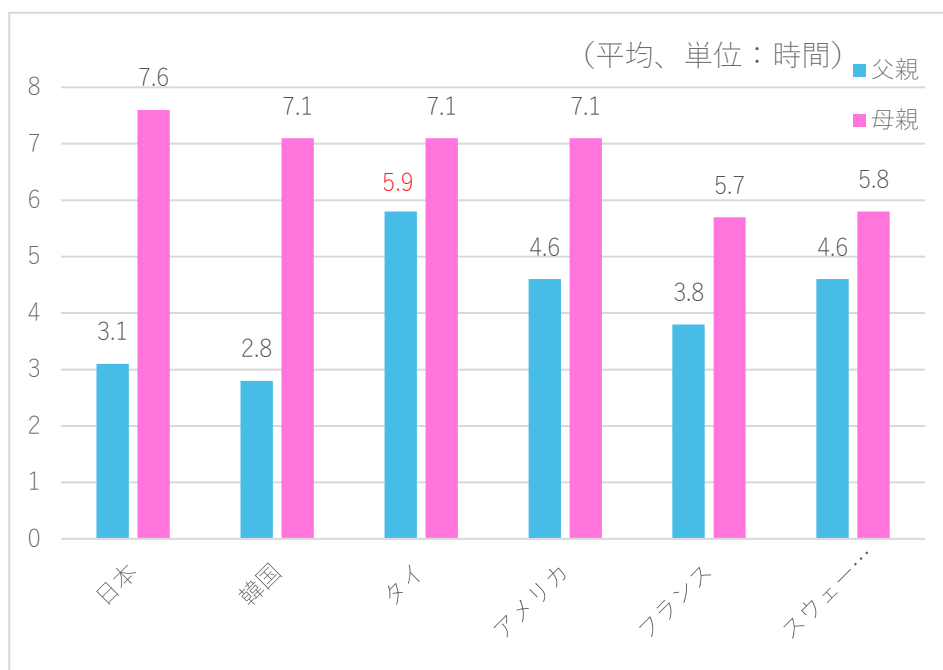
タイでの男女の経済格差が小さい理由を「女性の社会進出が進んでいるから」とし、事前調査ではタイの女性が働きやすい要因を明らかにするため、タイ社会の歴史や文化を先行研究から調査した。そこで女性が働きやすい理由として子育て環境が挙げられ、2つのタイ独特の特徴を見つけた。

(1) 父親の子育てへの関わり

父親と母親の子育てに対する調査では、タイの父親が子供と過ごす平均時間が長く、日本の父親と比べると約2倍もの時間を子供と過ごしていることがわかる。(内閣府 平成18年版 少子化社会白書 5 子供と一緒にいる時間の拡大)

また、職業と育児のバランスについての意識調査では、父母ともに「職業、育児の両方に同じくらい関わりたい」や「父母とも子育て優先してほしい」という回答が多かった。一方日本は、性別分業意識と育児期の夫婦の性別分業態勢が規定力を持つ社会であることがわかる。(国立女性教育会館研究ジャーナル vo. 11 August (2007) 船橋恵子 『男

図1：子どもと一緒に過ごす時間



(出典：国立女性教育会館「平成16年度・17年度家庭教育に関する国際比較調査」)

(2) 家族形態の変化

タイの家族の在り方として「双系性」の社会であり、夫婦は結婚後もそれぞれの家族圏から切り離されることがない。(花見楨子『異文化理解の諸相—東南アジア社会におけるジェンダーの考察を通して—』 p10-11) 伝統的なタイ社会では結婚後に妻方に居住する慣行もある。また、一般的に近代化が進むにつれて核家族化が進んでいくが、タイでは徐々に核家族が減ってきており、直系家族や拡大家族など3世代の家族が同居する家族形態が多くとられている。このことから、女性が子育てするにあたり、両親や親族に子供を預けることが容易な環境であるといえる。

表 1：家族構成の比較 (出典：竹内(2009) p. 187(557))

年次	家族形態	日本	タイ
1970 年	核家族	71.4%	
	直系家族	16.8	
	その他の家族	11.8	
1980 年	核家族	75.4	73.7%
	直系家族	17.4	24.9
	その他の家族	7.3	1.4
1990 年	核家族	77.6	72.0
	直系家族	16.2	26.2
	その他の家族	6.1	1.8
2000 年	核家族	81.1	67.0
	直系家族	13.3	26.6
	その他の家族	5.6	6.4

事前調査での仮説

主にこの2つのタイ社会特有の環境から、タイは日本にはない歴史文化的背景により、女性の地位が高く、家庭内・職場内ともに男女が対等な関係にあり、また、家族形態や子育て観により、女性が子育てしながらも就労しやすい状況であると仮説を立てた。

4. 現地調査

事前調査で建てた仮説の裏付けとして、タイと日本の女性が働く環境や意識の違いを明らかにするため、タイではバンコクで街頭アンケートを、日本では新型コロナウイルスの感染拡大防止のため Google フォームを用いアンケート調査を行った。タイと日本を比較するため、同じ質問のアンケートを行った。

地域：タイ（バンコク）、日本（Google フォーム）

対象：女性

回答者数：タイ 82 人、日本 79 人

Q1～4 は回答者がどのような層であることを明らかにするために「年齢」、「現在就労しているか」、「現在結婚しているか」、「子供がいるか」についての質問をした。Q5（ア）では「子育てをしながら働きやすいと考えますか？」を「とても思う・思う・思わない・全く思わない」の4段階で質問した。Q5（イ）ではQ5（ア）での回答の理由について問う質問をした。（複数回答可） Q6～Q8 ではタイと日本の女性の職場環境を調査するために、「職場における男性の割合」「あなたの職場は産後復帰しやすいか」「産後同じ職場で働いているか」「産後同じ職場で働きたいか」という質問をした。

図2：Q1～Q5（ア）

タイ(82)	年齢		現在働いているか		結婚しているか		こどもがいるか		子育てをしながら働きやすいか	
	10～19歳	2	はい	70	はい	37	はい	36	とても思う	22
	20～29歳	24	いいえ	11	いいえ	43	いいえ	46	思う	50
	30～39歳	25	未回答	1	その他（夫	2			思わない	8
	40～49歳	16							まったく思わない	0
	50～59歳	9							未回答	2
	60～(歳)	6								
日本(79)	年齢		現在働いているか		結婚しているか		こどもがいるか		子育てをしながら働きやすいか	
	10～19歳	17	はい	73	はい	43	はい	50	とても思う	3
	20～29歳	11	いいえ	6	いいえ	36	いいえ	29	思う	30
	30～39歳	2	未回答	0	その他（夫	0			思わない	42
	40～49歳	24							まったく思わない	4
	50～59歳	25							未回答	0
	60～(歳)									

図3：子育てしながら働きやすいと思う理由

タイ(72)	理由/(とても)思う	
	親に預けられる	56
	ベビーシッターに預けられる	19
	保育所に預けられる	19
	夫に預けられる	44
	職場に連れていける	16
	育児を理由に休むことができる	40
日本(33)	理由/(とても)思う	
	親に預けられる	12
	ベビーシッターに預けられる	0
	保育所に預けられる	14
	夫に預けられる	4
	職場に連れていける	3
	育児を理由に休むことができる	18

図4：子育てしながら働きにくいと思う理由

タイ(10)	理由/(とても)思わない	
	親に預けられない	2
	ベビーシッターに預けられない	2
	保育所に預けられない	3
	夫に預けられない	0
	職場に連れていけない	5
	育児を理由に休むことができない	5
日本(46)	理由/(とても)思わない	
	親に預けられない	15
	ベビーシッターに預けられない	3
	保育所に預けられない	12
	夫に預けられない	6
	職場に連れていけない	15
	育児を理由に休むことができない	27

図5：Q6～Q8

タイ(82)	職場における男性の割合		職場は産後復帰しやすいか		産後同じ職場で働いているか		産後同じ職場で働きたいか	
	0～20%	31	とても思う	11	はい	50	とても思う	15
	20～40%	22	思う	53	いいえ	15	思う	44
	40～60%	12	思わない	7	未回答	17	思わない	5
	60～80%	7	まったく思わない	0			まったく思わない	3
	80%～	4	未回答	11			未回答	15
	未回答	6						
日本(79)	職場における男性の割合		職場は産後復帰しやすいか		産後同じ職場で働いているか		産後同じ職場で働きたいか	
	0～20%	25	とても思う	15	はい	15	とても思う	7
	20～40%	14	思う	37	いいえ	47	思う	33
	40～60%	17	思わない	15	未回答	17	思わない	22
	60～80%	9	まったく思わない	2			まったく思わない	3
	80%～	6	未回答	10			未回答	14
	未回答	8						

調査結果

まず、Q5（ア）で「子育てしながら働きやすいと思うか」という質問に対し、タイでは「思わない」「全く思わない」と回答した人が合わせて 8 人とごく少数であったのに対し、日本では 46 人と大きな差が表れた。

（図 1）そして「思う」「とても思う」を選んだ理由として「夫が子供の面倒を見てくれるから」「子供を預けられる親がいるから」に注目すると、タイでは 61%が「夫に預けられる」を選んだ一方で、日本では 12%の人しか選ばなかった。また、タイでは 77%が「親に預けられる」と回答したが、日本では 36%にとどまった。

次に Q8 の「産後同じ職場で働いているか」に対して、ほぼ真逆の回答が得られた。タイでは約 60%が産後も同じ職場で働いていることにに対し、日本では 18%しか「同じ職場で働いている」と回答せず、57%が別の職場へ転職していることがわかる。また、「職場は産後復帰しやすい雰囲気であるか」という質問に対し、両国「思う」を選んだ割合が大きいことから、日本の女性は出産後、多くの女性が子育てをしやすい職場を求めて転職していることがわかる。また、「産後同じ職場で働きたい」と思う割合がタイと日本では日本のほうが少し高かった。

5. 考察

日本では出産・育児が女性の就労に大きな影響を与えている。古くからの考え方として、男性は外で仕事をし、女性は家庭に入ることが一般的で就労と育児の男女間での分業がされてきた。そのため現在でも女性は結婚・出産を機に退職・転職するケースが多い。また、日本では近代化が進むにつれ核家族化が進み、女性が一人で家事と育児をこなしていることは珍しくない。職場環境も男女ともに育児休暇を取得できる制度が整えられた一方で、一般化されてはならず意識が浸透していないことが現状である。アンケートでも日本では「育児を理由に仕事を休めない」と回答した人が多かったことから、育児と仕事の両立は容易ではないことがわかる。これは近年女性の社会進出が進み、男女平等のための法律なども施行される一方で、社会全体で女性が育児と仕事の両立を可能にする制度や意識が浸透していないからであるといえる。

今回の調査から、タイでは日本より父親の育児への参加が積極的であり、また家族形態によって親族からのサポートを容易に受けられる環境が整っているため、女性の育児の負担が軽減していることが明らかになった。そしてそれらはタイ女性の育児をしながらの就労に大きく影響しており、結果的に多くの女性が産後も同じ職場で働き続けていることがわかる。女性が育児によって就労を諦めることが少なければ必然的に女性の社会進出も進み、女性と男性の経済格差も小さくなると考えられる。

事前調査で得られたジェンダーギャップ指数からタイと日本の男女格差の数値の差に着目し、先行研究からタイの家族の在り方や考え方を調査した。そして実際にアンケートによって日本とタイの女性の意識に大きな差があることが明らかになった。日本では制度が整備され始めている一方、根底にある文化的な意識が追いついておらず、それらの制度が正しく運用されていないことがある。反対にタイでは制度がなくともタイ国民の慣習が現在のような環境を生み出しているといえる。今回の調査から、社会の諸問題の解決には制度の充実や法律の整備だけではなく、意識の改革も行う必要があるといえる。

理想的なタイ移住ガイドブックとは？

戸田達也 今尾文香 辻智弘 西尾麻耶

1. 課題

現存するタイに移住するためのガイドブックは移住のためになるのか、また不足はないのかを明らかにする。

2. 背景

タイは日本人にとって住みやすい国と言われており、日本からの移住者も多い国である。そのため、タイ移住のためのガイドブックは多く出版されている。しかし、現存するガイドブックは文章量が多いために読み難いものがあり、実際に移住する際にはどのような情報が役に立つのかわからない。したがって、調査を行い、現存するガイドブックに不足はないのかを明らかにする。

3. 調査方法（内容）

- (1) 現存するタイに住むためのガイドブック（桐越舞子、『ゼロからスタート！タイ移住サバーイマニュアル』、ごきげんビジネス出版、2018）（藤井伸二、『地獄/天国タイ移住』、扶桑社、2010）を読む。
- (2) 読んだ際に、ガイドブックに載っていないが移住に必要なだと考えられている情報をピックアップする。
- (3) 出した情報を基に現地でデータを集め、まとめる。
- (4) ガイドブックに不足していた情報を基に、補填的なオリジナルのガイドブックを作る。

4. 調査結果

二冊の本の内容をまとめた。

『ゼロからスタート！タイ移住サバーイマニュアル』

第一章 今だからおすすめしたいタイ移住

タイでの移住に必要な VISA は取りやすく、仕事も探しやすい。そして気候も快適で現地の人も温かい。そういったこともありタイ移住はとてもおすすめ。また、マッサージ、プール付きの家、美味しいフルーツ、旅行など少し贅沢して暮らすことができる。

タイ語を話せなくても生活に困ることはないが、話せた方が便利。

第二章 タイであれこれ探す編

タイで仕事を探すには、人材紹介会社の利用、ネットやフリーペーパーから自力で検索、コネの3つがある。

タイの小さめのアパートでは台所がないこともある。そのこともあり、**屋台が充実しているタイでの食事は屋台での外食が安くおすすめ。**

第三章 自力でタイ移住した人にインタビュー

日本と比べ残業が少なく、休みも取りやすい。だから悠々自適に暮らせる。

第四章 タイ生活を楽しむ7つのこと

- ・人と触れる
- ・郷に入っては郷を楽しむ
- ・タイ語の習得
- ・どこでも「とりあえず行ってみる」！
- ・屋台とレストラン、市場とスーパーの使い分け
- ・乗り物を駆使
 - BTS と MRT : バンコクの主要な鉄道
 - バイクタクシー : 少し危険だが、ちょっとした移動には最適。
 - バス : 値段を抑えて移動ができる。
 - タクシー : 安全に行きたいところへ行くことができるが、過大請求も多いので注意が必要。
 - トゥクトゥク : 観光客向けなので少し高めの価格設定だが、タイに来たら乗っておきたい。
- ・タイで現地の考えに触れ、理解し、楽しむ

『地獄/天国タイ移住』

第一章 タイという国を 100%楽しむ

視察旅行は必ずすべきである。ロングステイを始める前に、一度以上はその国に足を運んでおくこと。できれば2か月くらいは実際に住んでみたい。

家もホテルも安い。⇒コンドミニアムについて触れられているが情報が少ない。(住居)

タイ料理は辛いおいしい。うまい、はやい、安い三拍子がそろっている。夜の世界が充実している。そして、食べたくなったら日本食が充実しているので安心である。⇒実際に現地で確認。

タイは広い国で基本的には暑い国だが、気候は様々である。⇒だが詳しい情報が載せられていない(気候)

ゴルフやタイ式マッサージなどの娯楽が安く楽しめる。また同性愛に寛容である。

第二章 新生活までのカウントダウン

とにかくお金が必要。ビザは必ず必要である。⇒現地で働いている日本人の方にアンケートする。ただ日本より物価が安いので日本でいるより贅沢できる。⇒実際に現地で確認。

また、何が起こるかわからないので保険に入ることは必須である。

第三章 パラダイスまであと〇〇歩！【天国移住、実践編】

まずはどの町に住むか考える。バンコク、タイ北部、タイ南部、それぞれにメリットデメリットがあ

る。タイの国民性を理解する必要がある。バンコク、タイ北部でも英語を話せる人は限られているためタイ語は話せたほうが便利である。⇒現地で働いている日本人の方にアンケートする。困ったことがあれば迷わず日本大使館に相談を。

第四章 パラダイスまであと〇〇歩！【極楽ステイ、悦楽編】

趣味があるとタイ生活がより楽しめる。⇒現地で働いている日本人の方にアンケートする。日本的倏約、節約精神はタイでは美德とされていない。ビジネスを始めてみるのもあり。

第五章 タイ移住 ここが天国/地獄の分かれ目！

地方や郊外に行けば庭付き一戸建て暮らしも夢ではない。トレーダー生活について。楽して儲けることはできない。レディーボーイが多いので確認することも必要。

最初はタイ人に対していい印象を持っていたものの、悪い印象になるときもある。しかし、長い期間いると嫌な部分が見えてくるのは当たり前であり、前向きに考えることが必要である。

〈二冊の本を読んでみて、不足している点、さらに調査すべき点（灰色のマーカー部分）〉

- ・ ビザは会社側が手配してくれるのか、自分でするのか。
- ・ 仕事を行うにあたってタイ語はどれくらい習得しておくべきなのか。
- ・ 住居について（アパートとコンドミニアムの違いについて）
- ・ 現地に住む日本人の趣味
- ・ 具体的にタイではどのような贅沢ができるのか。
- ・ 物価を実際に確かめ、どのように感じたか。
- ・ 日本食はどれくらい充実しているのか。
- ・ 詳しい気候情報

～アンケートについて～

内容：タイでの暮らしに関するアンケート

（ビザ、生活費、言語、休日の過ごし方、日本食などについて）

対象者：タイで働く日本人

※アンケートで得られた結果は「(アンケート)」 筆者が体験して得られたことは「(体験)」と記してある。

(1) ビザは会社側が手配してくれるのか、自分でするのか。

→日本で就職活動する場合には会社側が手配してくれることが多い。(アンケート)

(2) 仕事を行うにあたってタイ語はどれくらい習得しておくべきなのか。

→簡単な受け答えができる程度であると、たいていの仕事はできる。(アンケート)ただし、現地で就職する場合はタイ語を話せたほうが良い。

(3) 住居について

→アパートとコンドミニアムが一般的である。アパートはコンドミニアムと比べ家賃は安い、家具は充実していない。コンドミニアムはアパートと比べ家賃は高い、家具が充実している。

	家賃	家具の充実度	電気代
アパート	比較的安い	低い	比較的高い
コンドミニアム	比較的高い	高い	比較的安い

(4) 現地に住む日本人の趣味

→現地に住む日本人にはゴルフが人気である。(アンケート) バンコクは東南アジアでも有数のゴルフ場天国であり、車で1時間ほどのところに数十のゴルフ場がある。プレー料金は、約2,000~4,000 バーツ (約6,500~13,000 円) が相場。

(5) 具体的にタイではどのようなぜいたくができるのか。

→マンゴーを安くおいしく食べることができる。マッサージも安いので高頻度で通いやすい。
屋台でタイ料理をたくさん食べることができる。(体験)

(6) 物価を実際に確かめ、どう感じたか。

→タイの企業が販売している商品(タイ料理、タイマッサージ、タピオカ、マンゴーなど)はお手頃な価格で提供されているが、マクドナルドやケンタッキー、ZARA やユニクロといった世界的なチェーン店や大型ショッピングモールなどでは日本と同じような価格設定だった。(体験)

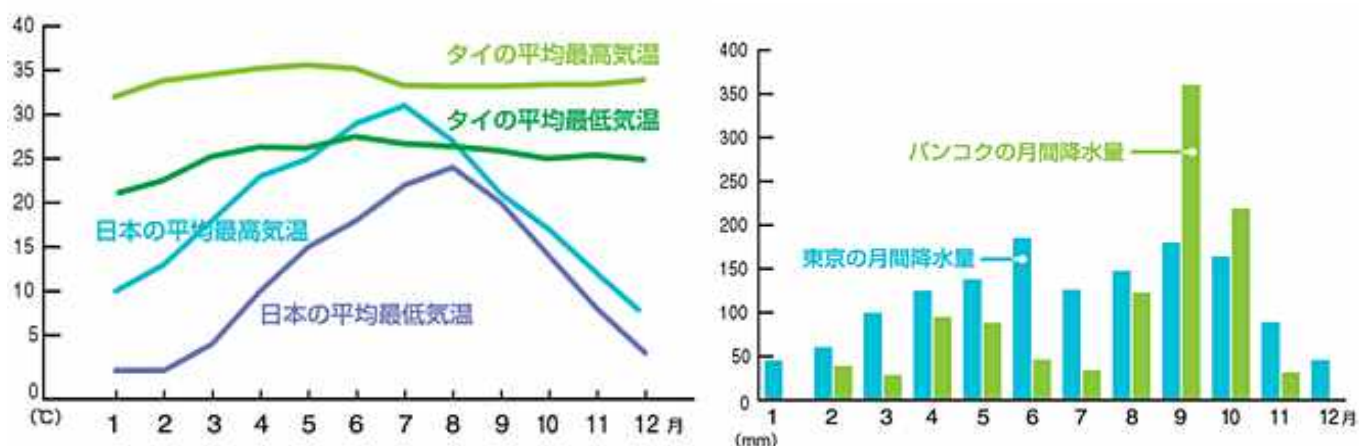
(7) 日本食はどれくらい充実しているのか

→特にバンコク近辺では日本食を気軽に食べることができる。ショッピングモールには、大戸屋やcoco 壱番屋などの日本食のお店が存在する。また、スーパーマーケットでは納豆などの日本食や日本ならではの調味料が購入でき、家でも日本食を味わえる。(アンケート)(体験)



(8) 詳しい気候情報

→熱帯気候であり、乾期・暑期・雨期に分かれている。乾期は、ほとんど雨が降らず過ごしやすい。暑期は、日差しが強く最も暑い。雨期は、最も雨が降り毎日短時間の激しいスコールが降る。



出典：タイの気候と天気 | 地球の歩き方

<https://www.arukikata.co.jp/weather/TH/>

5. 考察

現存するタイに移住するためのガイドブックは移住のためになるのか、また不足はないのかを「ゼロからスタート！タイ移住サバイブマニュアル」と「地獄/天国タイ移住」の2冊のガイドブックを用いて確認した。その結果、現存するタイに住むためのガイドブックは体験記的な要素が強く、移住を考えると不足している点があった。よって、より良いガイドブックを作成するためには、もう少し客観的な情報が必要だろうという結論に至った。具体的には調査結果に示したように、衣食住についての情報、タイでの趣味、物価などいくつか調査すべき点が見つかった。そこで、日系企業で働く日本人へのアンケートやインターネットを用いて、また実際にタイに行って調査を行った。調査を終えて、現存するタイに住むためのガイドブックの不足している点は自分たちで補うことはできた。しかし、一つのガイドブックを作るにあたって体験記的な要素と客観的な要素の両方を書こうとしてしまうと分量が多くなってしまう。よって、参考にした二つのガイドブックには体験記のようなものや実際に著者らや著者が現地で知り合った日本人に話を聞いたものが記されているため、移住するかどうかを考えるには十分な書物であるとする。

6. 終わりに

私たちが調査した部分のガイドブックを作ったのでQRコードを読み取ってぜひ見てください。



タイの日本へのイメージはどう変わっていったのか

佐藤あいり 相川明音 竹中杏由紀 谷口紗彩

1. 課題

タイの日本製品へのイメージを明らかにする。

2. 背景

インターネットでタイの人は9割、日本に対して好印象を持っているという記事を見つけた。タイは親日国であるといわれていることもあり、タイの日本へのイメージの変化に注目することにした。しかし、『外から見た日本人—日本観の構造（綾部恒雄編, 1992）』によると1980年代後半、日本製品へのイメージは良くなかったらしい。2020年となった今も本当にそうなのか。タイの人は日本企業や日本製品にどんなイメージを持っているのだろうか。事前調査と現地アンケートから、過去と現在でのイメージの違いを明らかにしつつ、タイ人の日本製品へのイメージを明らかにする。

3. 調査方法

(1) 事前調査

①文献

②インターネット

(2) 現地での調査

事前に作成したアンケート用紙を用いて現地の方に聞き取り調査を行った。アンケート内容を全てタイ語表記にしておくことで現地の方に答えてもらいやすくした。アンケート用紙とボールペンを渡し、それぞれの質問に該当する答えを1つ選択し、丸を付けてもらった。また、地域差があるのか知るためにチェンマイとバンコクの両方でアンケートを行った。他に、年代別に差が出るのか調べるために年齢の項目も用意した。小さいお店がたくさんある場所に行き、実際にお店で働いている店員さんや、大型のショッピングモールが隣接し人通りが多い橋の上の通行人の方を中心に調査を行った。

被調査者構成		
	チェンマイ	バンコク
0-20		32
20-50	30	164
50-	2	8



4. 調査結果

（地域差や年代別に違いがあるのかと予想していたが、調査対象の数に偏りがあったため正確な結果が得られないと考え、今回は省略する。）

(1) 事前調査

① 参考文献（外から見た日本人—日本観の構造, 綾部恒雄編, 1992）

（i）（1988年当時）タイ社会で日本の会社のブランドで流通しているものの多くが、現地合併企業によってつくられたものであり、国内市場を対象に出荷されているため国際水準の品質管理を受けていないという事情がある。この点についてはタイの技術水準が近年高くなっていること、特にこの2,3年で各社が日本や欧米の市場に製品を輸出することを目指して体制を組んでいるため問題は早晩解消すると思われる。

（ii）タイ人がもつステレオタイプである。かつて第二次大戦以前から1960年代初めにかけて、タイは日本の水準の高くない製品の販売市場になっていた。日本自体の技術水準が世界水準に達しなかったばかりでなく、東南アジアに対しては購買力に見合った二級品が送り出されていた事実がある。

したがってタイ社会では、日本製品に対して「安かろう、悪かろう」というイメージが長い間定着していた。また 1973 年の日本商品不買運動の際等にはこのイメージが増幅されてきたという経緯もある。したがって欧米との製品の比較で目に見える違いが認識されていない限り、いつまでも日本製品に対する否定的なイメージは曖昧なイメージの形で保持され続けることになる。タイ市場は日本以上にブランドへの志向が強く、ほとんど同じ品質であっても特定のブランドを選考する傾向が強い。

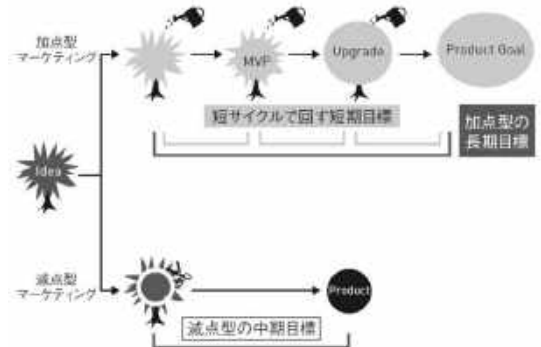
② 「日本製品」が海外で売れなくなった根本原因 中国に一度敗れた「メイド・イン・ジャパン」

(i) 「安くて高品質」という日本製品のかつての評価は、いまや中国や韓国、アメリカへの評価

日本製品は、高品質の代わりに「余計な機能がなくて割高」「過剰品質」と揶揄され、苦境に立たされているのが現状だ。主な敗因は、日本のものづくりが変わってしまったと言うよりも、「変わらなかった」点にある。日本のものづくりは、昔から変わらず今でも完璧主義で、妥協がない。しかし、追い求める「完璧さ」が世界のトレンドとズレてしまっているのだ。

(ii) 世界のトレンドは「加点型の完璧主義」

「加点型の完璧主義」では、尖ったアイデアを加点で評価し、その枝葉を活かしてプロダクトの価値を最大限に高めることを目指す。まず、尖った要素を完璧に仕上げる理想形の「加点型の長期目標」が設定される。この長期目標は、プロセスに応じて、修正・更新ができるものだ。それとは別に、短サイクルで回す短期目標も設けられ、これに基づき、いち早く MVP をリリースしていく。そうして、市場の反応に対して迅速・柔軟に軌道修正を行いつつ、バージョンアップを重ねる。あるいは、初期の反応が悪ければ MVP の段階で撤退することもできる。この段階ならばダメージは比較的小さく、手を引きやすい。「最も効果的な市場調査とは、実際にリリースしてみる」というわけだ。短サイクルに合わせ、開発とプロモーション、流通、販売、リサーチなどが連動していく。このサイクルを重ねた先に、理想として思い描く「完璧なプロダクト」が実現される。つまり、日本も世界のトレンドも「完璧」を目指してはいるが、完璧さの種類が異なるのだ。下の図のように、日本は、1つのプロダクトに時間をかけ「減点型のミニマムな完璧」をつくって広めようとする。



図：『リープ・マーケティング 中国ベンチャーに学ぶ新時代の「広め方」(イースト・プレス)』より
参考【<https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/toyokeizai/business/toyokeizai-361229>】

③ 参考文献 (外から見た日本人—日本観の構造, 綾部恒雄編, 1992)

の全体結果

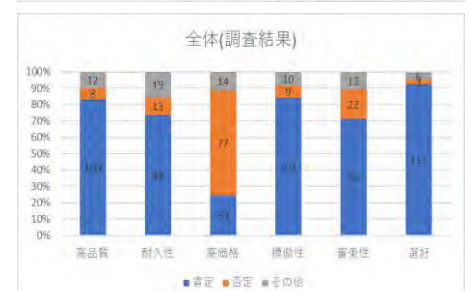
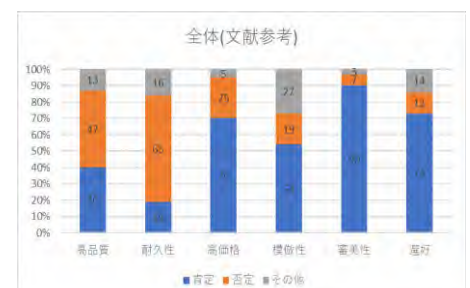
(肯定→そう思う、否定→そう思わない)

- ・高品質や耐久性は否定(そう思わない)の方が多いため、好印象であるとは言えない。
- ・高価格は肯定(そう思う)の方が多いため、値段が高いと感じる人が多いといえる。

(2) 現地調査 (肯定→そう思う、否定→そう思わない)

① 現地調査の全体結果

- ・高品質や模倣性や選好は肯定(そう思う)が80%を超えているため、好印象と言える。
- ・高価格は否定(そう思わない)の方が多いため、値段が安いと感じる人が多いといえる。



じる人が多いと言える。

⇒ (1) ② (昔のデータ) から (2) ① (調査結果) に傾向が変わってきていることより、タイ人の日本製品に対する全体的なイメージは良くなってきていると言える。

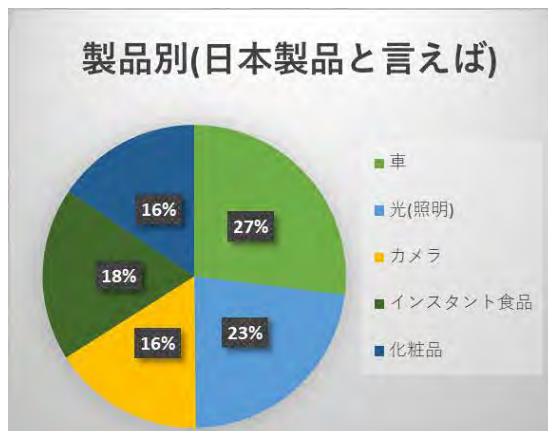
次にどの日本製品が全体的なイメージ向上に関与しているか調べるために以下の調査をした。

②日本製品といえば何を思い浮かべるかの現地調査結果

- ・車を思い浮かべる人が27%で一番多い。

製品別に調べてみて、差が大きく見られた「高価格」に着目すると、否定を選んだ割合は、車が78.7%、光(照明)が72.0%、カメラが58.8%、インスタント食品が68.1%、化粧品が89.4%であった。

次は日本製品と言って思い浮かぶのが一番だった車と、「高価格」において否定を選んだ割合が一番高かった化粧品に注目してみる。



(3) 現地調査の製品別(車)の結果

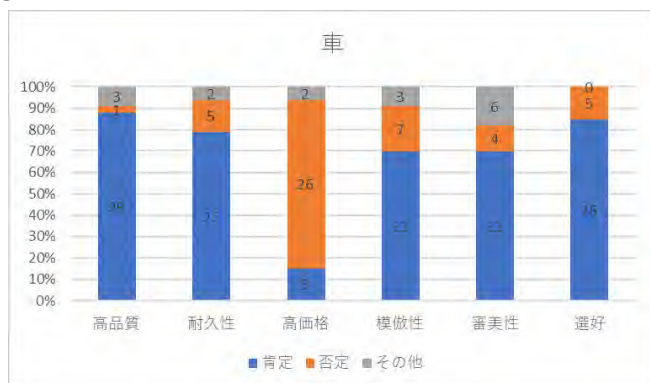
①インターネットより

- ・ASEANの自動車市場における日系メーカー

日系メーカーは、タイの自動車市場をほぼ独占しており、2013年には88%である。日系メーカーによる高市場シェア獲得の背景として1つは、ASEAN域内へ多額の投資を行ってきた結果であり、トヨタはタイでは75万台、本田は30万台、日産は22万台の完成車工場を所有している。もう1つは、日系メーカーのASEANでの地道な行動成果によるものである。日系メーカーは1960年代からASEAN自動車市場を開拓し、各国での存在感が高くなっている(小林・大森[2014] p. 47)。

参考【<http://www.senshu-u.ac.jp/~off1009/PDF/170310-nenpo51/ishikawa.pdf>】 タイ→P, 14~19

②アンケートより



③小括

タイの自動車市場の88%が日系メーカーであるため、タイでは車と言えば日本製、日本製品と言えば車、という関係が成り立っているのではないかと考えられる。また、車を購入する際はほとんどが日本車であるから、日本車は高価格であるというイメージはつきにくいと考えられる。ただ現在のような市場になったのは日本の地道な行動成果である。

(4) 現地調査の製品別(化粧品)の結果

①インターネットより

- ・化粧品輸入規模推移

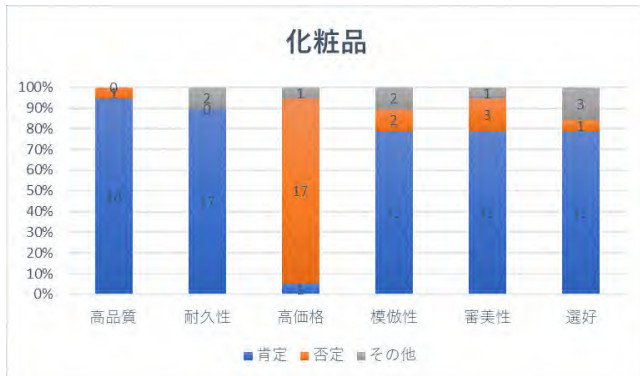
タイの化粧品輸入額は2008年の約76億バーツから2012年には約128億バーツへ4年で69%拡大している。輸入額トップのアメリカからの輸入は2008年から2012年で約20億バーツ(約1,400トン)から約26億バーツ(約1,500トン)に変化し



ているのに対して、日本からの輸入は約 10 億パーツ（576 トン）から約 22 億パーツ（約 1,200 トン）と急増している。

参考【https://www.jetro.go.jp/ext_images/jfile/report/07001664/report_th_cosme.pdf】

②アンケートより



③小括

製品別でグラフにしてみると、化粧品を選んだ人は高価格を否定（そう思わない）としている割合が高かった。つまり、日本の化粧品を安いと感じている人の割合が高いといえる。また、タイの化粧品輸入額が増加傾向の中、日本からの化粧品の輸入量が増えているということは、タイの人が日本の化粧品を好んでくれており、良いイメージをもっていると考えられる。

5. 考察

事前学習の参考文献から、以前は国際水準の品質管理を受けていないことと、タイ人がもつステレオタイプでいつまでも日本製品に対する否定的なイメージは曖昧なイメージの形で保持され続けることが日本製品へのイメージが悪い理由に挙げられていたが、タイの技術水準が近年高くなっていることと、特にこの2,3年で各社が日本や欧米の市場に製品を輸出することを目指して体制を組んでいることから問題は早晩解消すると予想されていた。そして、調査結果からも日本製品へのイメージは良くなっていると言える。イメージがよくなっている理由の一つとして、インターネットの調査から明らかになった日本のASEAN域内へ多額の投資やASEANでの地道な行動成果が挙げられる。また、参考文献の全体結果のグラフと現地調査の全体結果のグラフより、タイには日本製品に好印象をもつ人が多く、昔より日本製品に対する評価が良くなっているため、日本製品のイメージが向上したと考えられる。高価格であると感じる人の割合が大幅に減っていることから、身近なものになっているのではないかと考えられる。よってタイにおいて日本製品は欠かせない存在になっていると考えることもできる。それは様々な要因が関係していると考えられるが、私達の調査では主に関税やシェア率に影響を受けているのではないかと考えた。ただ事前調査の世界の傾向より、日本のこれからのマーケティングには注視する必要があるであろう。

6. おわりに

日本に対する印象の変化をタイにおける日本製品のイメージはどうなのだろうという疑問に結びつけ今回の調査テーマに至ったが、予想以上にタイ人にとって日本製品が身近で良品というイメージが持たれていると感じた。具体的な製品名を聞いたことで、タイではどのような日本製品が求められているのかを発見できたと同時に、タイ以外の国ではまた違った製品が求められるのだろうかという新たな疑問も浮上した。また、イメージが時代とともに移り変わった背景には、歴史や経済の変化が関わっているということが分かった。今回チェンマイとバンコクでアンケートを取ったが、集計数に差が生じたため地域別で見ることはなかった。しかし実際に渡航し、バンコクで日本人観光客をよく見かけたことから、地域別にイメージの違いをみると、日本人観光客数や日系企業の進出のような日本との関わりの深さでイメージは変わってくるのかもしれないと考えた。その国に対する製品のイメージは、時代の背景と密接に関わっていると感じたため、これからのマーケティングにおいても、お互いの国が強い信頼関係を築くことが大切だと思った。また、その時々におけるニーズに合わせた行動がイメージを良くすることなどにも繋がると思った。今回の調査で私達ももっと日本製品に誇りを持ってよいと言えるような結果が現れて嬉しく思う。



第三部

～交流企画～

タイ・プログラムでは、農村の学校 (Maehopra Wittayakom School) と都市の学校 (Satit Kaset MP) を訪問し、現地の学生と交流する企画を行います。

調査企画と同様に複数の班に分かれ、各班でのミーティングや全体での意見交換を行い、自分たちで一から企画を考えます。

縁日

～日本の祭りを楽しもう～

田岸来実 相川明音 今尾文香 谷口紗彩 西尾麻耶



1. 概要

現地の生徒たちに、楽しみながら日本文化に触れることのできる体験をしてもらいたいと考え、日本の縁日を再現した企画を構想した。うちわ作り、輪投げ、魚釣り、ピンポンカップインの4つの遊びのブースと、鈴カステラ、ミルクせんべいの2つの食べ物のブースの計6ブースを同時に出店した。また、全体で盛り上げられる企画もあれば良いのではないかと考え、最後に全体でビンゴ大会を行った。

2. 目的

現地の生徒たちに、楽しみながら日本や日本文化に対する興味・関心を持ってもらう。

3. 事前準備

事前に物品購入リストを作成し、それに基づいて物品を購入した。輪投げで使用したペットボトル以外はすべて日本から持って行った。また、渡航前に作成できるものは作成しておき、大きめのセットは現地で作成した。

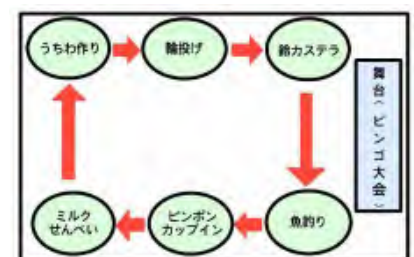
4. 内容

【役割分担】

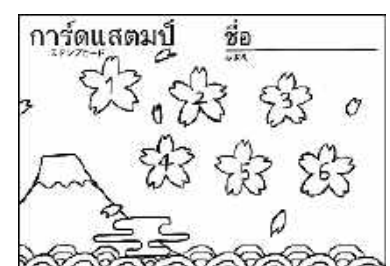
16人のメンバーを各ブースに2人ずつ配置し、余った4人のうち2人は補助員として仕事量の多いブースに配置し、残りの2人は全体を見る役割にした。藤山先生やTAさんにも、補助や案内係として協力してもらった。

【運営方法】

事前に6つのグループに分かれてもらい、ローテーション方式で回した。各グループが遊び終わるごとに各ブースの担当者に報告してもらい、全ブースからの報告が集まったらローテーションするという形をとった。各回10分でのローテーションを想定して行った。また、生徒たち全員に首からかける型のスタンプカードを配布し、遊び終わったらそのカードにシールを貼るという形式にして、誰がどこで遊び終えたかをわかりやすいようにした。なお、各ブースには番号が当てられており、ローテーションの順番に沿って①うちわ作り、②輪投げ……⑥ミルクせんべいとした。



↑ローテーションの方法



スタンプカードのデザイン→

(1) うちわ作り

①内容

柄のついた折紙が貼り付けられている紙皿に、ペンで絵を描いたり、シールを貼ってデコレーションしたりすることで、世界に一つだけのオリジナルうちわを作ってもらう。

②事前準備

紙皿に指が通せる大きさの穴を開けておき、その紙皿の中央に丸く切り抜いた折紙を貼り付けておいた。また、星やハートなどの形のクラフトパンチを使ってデコレーション素材をあらかじめ用意しておいた。

現地ではブルーシートを敷き、紙皿やデコレーションするための素材、ペンや糊を並べるという作業をした。

③本番の手順

- (i) 2 班に分かれ子供たちにやり方を説明する。
- (ii) 好きな柄の折紙が貼ってある紙皿を選んでもらい、時間いっぱい自由にデコレーションしてもらう。
- (iii) 出来上がったらスタンプカードにシールを貼る。



④結果と反省

主に桜や侍など『日本』にこだわった柄の材料を使用し、好きな柄を選んでもらうことで、柄の説明などからお互いの会話を弾ませることができ、日本の文化を楽しく知ってもらうことが出来た。うちわに日本語で子供たちの名前を書いてあげるとすごく喜んでくれて、形に残る思い出として素敵な作品が出来たと思う。また他の班より交流時間が長かったのも、より深く交流することが出来た。

一方反省点は、つい夢中になって製作を凝ってしまったことである。1 回のローテーションにつき各ブースの持ち時間が約 10 分と決められていたが、時間配分がいい加減になってしまい、ローテーションが狂ってしまった。また、風の影響で細かい材料が散らばってしまったので、素材など細かいものの管理を工夫したほうが良いと思った。

(2) 輪投げ

①内容

ペットボトルに水をいれたもの、新聞紙とカラーテープで作った輪を用意し、離れた距離から投げる。

②事前準備

新聞紙をねじってビニールテープで補強し、投げ輪を作っておいた。現地では、現地で調達したペットボトルに水を入れ（6 本）、スタートラインにテープを張った。上記を 2 レーン分準備した。

③本番の手順

- (i) テープの線に立ってもらう。
- (ii) 投げ輪をペットボトルめがけて投げってもらう。
- (iii) 6 本中 4 本入れば、景品を渡す。また、スタンプカードにシールを貼る。



④結果と反省

ペットボトルが不安定だったためガムテープで補強した。適度な難易度で、男女関係なく楽しめた。反省点としては、プレー時間が短かった。また、もっとコミュニケーションがとれるとよかった。

(3) 鈴カステラ

①内容

竹串に鈴カステラとマシュマロを交互に2つずつ刺し、チョコレートシロップやカラーシュガーなどでアレンジをしたものを提供する。

②事前準備

日本でリハーサルを行った際に提供するまでにかかる時間などを計り、現地で迅速な行動ができるよう準備した。現地では、まずテーブルをセッティングし、事前に竹串に鈴カステラとマシュマロをさしたものを数本用意した。

③本番の手順

- (i) 竹串に鈴カステラとマシュマロを刺し、デコレーションする。
- (ii) 作ったものを提供し、スタンプカードにシールを貼る。



④結果と反省

チョコレートシロップとカラーシュガーで可愛くアレンジをしたことで興味を持ってくれる子が多く、とても美味しそうな様子で鈴カステラとマシュマロを食べてくれて嬉しかった。2つのお菓子の美味しさを知ってもらえたと思う。

反省点としては、他の出し物とは違い提供型だったため短時間で終わってしまったことだ。何かプラスアルファを考えるべきだった。全体としては、リハーサルで得たことを本番で活かすことができ、楽しんでもらうことができたので良かった。

(4) 魚釣り

①内容

厚紙で作成した魚を釣るゲームである。全ての魚に1~5のいずれかの番号の書かれた紙がクリップで留められており、釣った魚に書かれている番号によって、景品のお菓子が決定するという工夫を施した。

②事前準備

メンバーがデザインしたオリジナルの魚、割り箸で作った釣り竿、景品の番号が書かれた紙を事前に作成しておいた。現地では、ブルーシートの上に魚を準備し、景品の番号が書かれた紙を魚についているクリップにセットした。

③本番の手順

- (i) 魚釣りのお手本を見せる。
- (ii) 魚釣りの前にスタンプカードにシールを貼り、シールを貼ってもらった人から実際に魚釣りをやってもらう。
- (iii) 釣った魚についている紙と景品を交換する。



④結果と反省

一見簡単そうに見えるが、クリップの付け方を工夫したことで難易度が上がり、多くの子が楽しんで遊んでくれた。釣れた魚によって景品を変えたことが良かった。

反省点は、2人で魚釣りのコーナーをまわしていたため、思ったより大変でバタついてしまったことだ。また、景品も余ってしまったので、なるべく必要な分だけ用意できると良かった。

(5) ピンポンカップイン

①内容

段ボールの中に赤、青、白の3種類の紙コップを用意し、離れた距離から1人3球ピンポン玉をバウンドさせてカップに入れる。ピンポン玉が入った紙コップの色によって、景品が決まる。

②事前準備

段ボールは解体・分担して日本から持って行った。現地で段ボールを組み立て直し、段ボールの中に紙コップを敷き詰めた。また、紙コップや段ボールに絵を描いて見栄えを良くした。景品となるバルーンアートは早くから作るとしぼんでしまうため、当日の朝の移動の際に作成した。

③本番の手順

- (i) ビニールテープの線に立ち、ピンポン玉を投げてもらう。
- (ii) 何個のカップに入ったか数える。
- (iii) 景品を渡し、スタンプカードにシールを貼る（赤に入るとバルーンアート、青に入るとカルパス）。



④結果と反省

景品として用意したバルーンアートは用意に手間はかかるが、好評だった。

しかし反省点として難易度が低く、景品が足りなくなった。最後にカップ数を減らし難易度の調整を行ったが、もっと早くに調整すれば良かった。

(6) ミルクせんべい

①内容

関西（特に大阪）でお祭りの定番であるミルクせんべいを、タイ人の子どもたちにも体験してもらう。時間が余ったらけん玉をしてもらう。

②事前準備

日本でのリハーサルの際に試作を作り、提供にかかる時間を計った。現地では、学校側に借りた机に新聞紙を並べた。また、準備時間にストックを作っておいた。

③本番の手順

- (i) 生徒たちとじゃんけんをする。
- (ii) 生徒が勝ったら4枚、負けたら2枚重ねたミルクせんべいを渡す。
- (iii) スタンプカードにシールを貼る。
- (iv) 時間が余ったらけん玉のやり方を教える。



④結果と反省

枚数を決める方法をじゃんけんにしたのが良かった。ただ食べるだけでなく、ちょっとしたゲームとして楽しんでもらえた。また、食べ終わるのが早かった子を中心に、けん玉も楽しんでもらえた。

反省点としては、ミルクせんべいがどういうものなのかという説明ができなかった。また、予想よりも忙しくなり、作る人と渡す人で交流時間に差ができてしまったため、役割の交代を事前に決めておくべきだった。

(7) ビンゴ大会

①内容

日本でもお馴染みのビンゴゲームを、景品付きで行う。

②事前準備

ビンゴゲームのセットと人数分のビンゴカードに加え、出た数字を書くための大きな紙を用意した。また、文房具やおもちゃなどの景品を20個程度用意した。現地ではまず舞台上に机をセットし、ビンゴゲームのセットと景品を机の上に並べた。また、ホワイトボードがあったので、そこに大きな紙を貼り付けた。

③本番の手順

- (i) 生徒たちに並んで座ってもらい、ゲームの説明をする。
- (ii) 出た数字を言う→紙に書くを繰り返し、ビンゴの人が出たら前に出て来てもらう。
- (iii) 景品を選んでもらう。



④結果と反省

タイにもビンゴゲームに似たゲームがあるらしく、ルールをすぐに理解してもらえた。最後を全体で行うレクリエーションにしたことで、締めりが良くなったと思う。また、最後のローテーション後に準備をし始めたため、待ち時間なくビンゴ大会を始めることができた。

5. 全体の振り返り

縁日班はとにかく用意や作成をすべき物品が多く事前準備が大変であったが、班外のメンバーにも手伝ってもらい、円滑に作業を行うことができた。本番では時間が押していたため、想定時間よりも早く終了させることが求められた。予定通りすべてのブースが遊びを終えたことを確認してからローテーションさせていては間に合いそうになかったため、遊び終わったところから順次空いているブースへ移動させる方式に変更した。このように想定外の事態はあったものの、滞りなく進めることができた。

(1) 良かった点について

- ・スタンプカードによって誰がどこで遊び終えたかがわかるシステムになっていたため、ローテーションの順番が崩れても混乱せず回すことができた。
- ・補助員や全体を見る係を設けたことで、スムーズに進行することができた。
- ・ビンゴゲームの用意を6つのブースでの出し物が終盤に差し掛かったところで行い始め、さらに6つのブースの後片付けをビンゴゲームの説明の際に行うなど、準備や片付けの時間の使い方を工夫できたため、予定よりも早く企画を終了させることができた。

(2) 改善点について

- ・準備の際に物品がブースごとでまとめられておらず探すのに苦労したため、ホテルから持って行く前にあらかじめ種目ごとに仕分けておき、その上で分担して持って行くべきだった。
- ・運動会班やフリマ班との共用の物品を学校に置いてきてしまうというトラブルがあったため、学校に置いて帰るものと持って帰るものを事前にきちんと決めておくべきだった。
- ・もう少し日本の文化が伝わるような説明を加えてもよかった。



6. おわりに

時間が押していて予定通りの形でローテーションできないという想定外の事態はあったものの、なんとか無事に企画を終えることができた。これは後輩へのアドバイスになるが、農村での交流においては渡航前に生徒の正確な人数・企画を行う場所などの確定された情報やイメージを掴むことが難しいため、あらゆるケースを想定して準備を進めなければならない。特に今回のように「時間が押す」というのはよくあるパターンであるので、なるべく時間に余裕を持った企画作りを推奨する。また、今回は特に行っていないが、渡航前にちょっとしたリスクマネジメントを行っておくと良いと思う。

そして、今回の企画にあたっては説明を行う部分も多く、通訳の方や EDF のスタッフの方にたくさん助けていただいた。藤山先生や TA さんにも補助や誘導を手伝っていただくなど、多くの人の力を借りて企画を成立させることができた。今回この企画に携わってくださったすべての人に感謝したい。最後に、企画における最後の挨拶で「楽しんでもらえましたか？」と聞いたときに、生徒たちが「楽しかった！」と反応を返してくれたのがとても嬉しかった。本当にこの企画を成功できてよかったと思う。





運動会

～運動会を通して日本文化を体験しよう～

中橋遼大 角野栄里 竹中杏由紀 為沢友月 長谷川夏芽

1. 目的

- (1) 現地の子供たちに、日本の運動会という一つの文化を知ってもらい、楽しんでもらうことができる。
- (2) タイプロメンバーが、運動会を運営するにあたって PDCA サイクルを体得する。

2. 概要

生徒たちを 4 チームに分け、しっぽとり・障害物リレー・大縄跳び・応援合戦・じゃんけん列車の 5 つの競技を行った。タイプロメンバーも 4 チームに分かれて、運営をしながら一緒に競技に参加した。

【タイムスケジュール】

13:00	概要説明	→	13:05	準備体操	→	13:10	チーム分け	→	13:20	しっぽとり
13:40	障害物リレー	→	14:00	大縄跳び	→	14:15	休憩	→	14:25	応援合戦
14:35	じゃんけん列車	→	14:45	閉会式						

3. 事前準備について

(1) 企画の進め方

Plan (計画)	①班員全員でアイデアを出し合った。
	②それらのアイデアから実際に行う競技を選び、企画の大枠を決めた。
	③各競技の責任者を決定し、それぞれが競技の概要を決めた。
Do (実行)	④簡単なデモンストレーション、企画全てを通すデモンストレーションを行った。
Check (評価)	⑤班会議と全体の授業で、各責任者が担当競技の内容について 報告・相談を行い、アドバイスを貰った。
Action (改善)	⑥各競技の詳細を決定し、班員全員で改善を重ねた。 最後に、当日の役割分担と各役割の動きを決めた。

(2) 反省

①良かった点

- ・各競技の担当者を決めていたので、班の全員が責任を持って企画を進められた。
- ・資料を一つにまとめていたので分かりやすかった。
- ・他班の協力があつたので、準備物の作成が早く終わった。
- ・第 2 回合宿で一度全体の流れを通すことができた。

②改善点

- ・企画前日に決めなければいけないことが多かった。
→渡航前にもう少し内容を詰めるべきだった。
- ・スムーズに次の競技に移れないときがあった。
→タイムスケジュールを班員以外の TP メンバーに向けて、分かりやすく作るべきだった。

4. 当日のプログラムについて

(1) チーム分け

①内容

チーム名を日本文化（富士山・桜・寿司・侍）にし、当日学校の先生方に生徒を4チームに分けてもらった。生徒のチームを識別するために『カラーテープ』（富士山…青、桜…赤、寿司…黄、侍…緑）を生徒の肩に貼った。また招集を円滑に行うために、全てのカラーテープに番号を振った。

応援と生徒の招集という2つの役割を兼ねた『応援旗』を用意した。そして、生徒全員にチームカードをプレゼントした。



②良かった点

- ・学校の先生が4チームに分けてくれたので、スムーズに進めることができた。
- ・チームの旗の説明をしたので、日本文化について知ってもらえた。
- ・旗を持つ人をあらかじめ決めていたので、誘導がスムーズに行えた。

③改善点

- ・細かい情報共有ができておらず、チーム分けのカラーテープの配り方を間違えた。
→前日に変更点が多くなったので、できる限り渡航前に細かいところまで決めておく。

(2) 準備体操

①内容

タイプロメンバーの5人は生徒たちの前にある壇上上がり、それ以外のタイプロメンバーは生徒たちの間に並んで体操をし、その体操を真似てもらった。体操は、『ラジオ体操第一』の音源を流して行った。



②良かった点

- ・子供たちがタイプロメンバーを真似するだけなので、説明が省け時間が短縮できた。
- ・ラジオ体操を行う意味を説明したので、日本文化に触れてもらえた。

③改善点

- ・後ろの子たちにも見本がより見えるように工夫すべきだった

(3) しっぽとり

①内容

タイプロメンバーが実演しながらルールを説明したあと、1試合1分30秒で2つのコートで2試合同時に行った。2試合目は勝ったチーム同士、負けたチーム同士行った。

《ルール》

- ・コートからはみ出してはいけない。



- ・しっぽを取られた人は待機場所（自分のチームの旗がある場所）に移動。
- ・試合終了の笛が鳴ったらコート内に残っている人はその場に座る。
- ・タイプロメンバーがひもを集めて集計→結果発表

②良かった点

- ・準備完了などの合図をしてくれるメンバーが多く、進めやすかった。
- ・急な変更があったがみんな臨機応変に対応できていた。
- ・役割がしっかり決まっていたのでしっぽの回収や集計がスムーズにできた。
- ・試合の長さが丁度良かった。
- ・ルールが簡単で分かりやすかった。

③改善点

- ・説明が長くてわかりにくかったのもう少しわかりやすい説明をすべきだった。
→長田さん（通訳の方）との打ち合わせを綿密に行い、絵なども使って簡潔に説明する。
- ・テントとコートの距離が予想よりも遠く戸惑ってしまったので事前に対策を考えておくべきだった。
- ・しっぽを取られた後や試合終了後に戻る場所がわからない生徒がいた。
→わかりやすい説明、誘導をする。
- ・しっぽの長さがバラバラだった
→あらかじめ長さを決めておく。

障害物リレー

(4) 障害物リレー

①内容

学校のトラックを利用して、各チームから8人で4つの競技をリレー形式で行った。また、1つの競技を2人1組で行った。実演しながらルール説明を行った。

《ルール》

(i) デカパン競争

2人1組でデカパンを履いて肩を組み、『スタート/ゴール地点』から次の競技場所に向かう。

(ii) ピンポン玉競争

1人がスプーンの上のピンポン玉を落とさないように次の競技場所に向かう。もう一人の人は落としたピンポン玉を拾いあげる。また、途中地点で役割を交代する。

(iii) 風船運び競争

2人1組で肩を組み顔の横に風船を挟み、風船を落とさないように次の競技場所に向かう。

(iv) 二人三脚

2人1組で足首にタオルを結び、二人三脚で『スタート/ゴール地点』に戻ってきたらゴール。



②良かった点

- ・複雑なルールだったが、丁寧に説明したため、理解して競技に参加してもらえた。
- ・男女比を考慮した走順だったので、白熱した勝負になり盛り上がった。
- ・積極的に競技に参加してくれたので、スムーズに参加者が決まった。
- ・競技に使う風船が割れたり飛んで行ったりしたが、予備を作っていたおかげで無事に競技ができた。

③改善点

- ・各チームの競技参加者の決め方が複雑だった。

- ・種目によりルールが分かってないことがあった。
→絵や図を使った説明をするべき・ルールを簡単にすべきである。
- ・競技がない子全員が応援してくれたらもっと良かった。
→日本の応援の仕方を教えたなら統一性がある。

(5) 大縄跳び

①内容

タイプロメンバーが実演しながらルールを説明した後、各チーム一斉に、練習 40 秒間、本番 1 分間で競技を行った。

《ルール》

- ・生徒に縄を回してもらう。
- ・ポイントは加点方式とし、途中で失敗したらそれまでの跳んだ回数にプラスしてカウントする。



大縄跳び

②良かったところ

- ・お手本をテントの近くで行ったことで、子供達に日陰で見てもらうことができた。
- ・加点制にしたことで、点をとってもらいやすかった。
- ・当日人数が減ったが、前半後半をなくしたことで、子供たち全員に参加してもらうことができ、時間短縮にもなった。

③改善点

- ・始まりの合図が分かりづらく、練習から本番への移行がスムーズにできなかった。
→始まりの合図をより目立つようにする。
- ・練習時間をもう少し欲しいという声があった。
- ・ネームプレートを外してもらうべき、という TP8 期の意見を反映できていなかった。
- ・外での競技が続いており、子供たちが暑そうであった。
→中で行える競技はできるだけ中で行う。
- ・大縄跳び自体が初めてで少し難しかった。

(6) 応援合戦

①内容

チームごとにある言葉を叫んでもらう。どのチームが一番大きい声を競う。

《ルール》

どのチームが1番なのかは審査員3人に選んでもらって得点が入る。3回の勝負で得点が一番大きかったチームの勝ち。(3回の勝負の合計で順位が決まる。)

★叫んだ言葉 : Yeah (Are you ready?と聞いて)

ພັກຈີ (pakchi パクチー)

ສູ້ (スースー 頑張れ)

応援合戦

パクチー！



②良かった点

- ・ 叫ぶ言葉を紙に書いて示したことで叫ぶ言葉が分かってもらえてスムーズに進行ができた。また、事前に数人の現地の生徒に読めるか確認をしていたことで伝わらないということはなかった。
- ・ 並び方を円にして真ん中に審査員の人に立ってもらったので公平に審査ができた。
- ・ 審査員を現地の先生にしてもらったことで、より盛り上がった。
- ・ 審査員にチームカードを渡してカードを上げてもらうことで、審査結果が分かりやすかった。
- ・ 叫んでもらう順番を各対戦で変えたおかげで、平等性を保つことができた。
- ・ 叫ぶときにタイ語で 3・2・1 とやったことで、子どもたちもスムーズに入れた。

③改善点

- ・ 3 回の対戦を終えて 4 チーム中 3 チームが同率 1 位となってしまった。そのため、4 回戦目をして 1 位は決まったものの同率 2 位が出来てしまった。
→ 得点方法をもっと工夫するべきだった。
- ・ 練習と本番の違いが曖昧だった。
→ 文字で示した方が分かりやすかった。
- ・ 審査結果を示すカードが小さく、審査員の後ろで見えない人もいた。
→ 応援合戦専用のカードを作るべきだった。

(7) じゃんけん列車

①内容

ルール説明後、円の中で実演し、一列になるまでオープン競技として、じゃんけん列車を行う。

《ルール》

音楽を流しながら自由に移動する。音楽が止まったら近くの人とじゃんけん（日本語）をし、勝った人の後ろについて肩に手を置く。これを最後の一列になるまで繰り返す。



②良かった点

- ・ 応援合戦の体系のまま、見やすい状態で説明が出来たので、競技をスムーズに始められた。
- ・ 見本や長田さんの分かりやすい通訳のおかげで、みんながルールを理解して楽しんでくれた。
- ・ 縁日で覚えてくれた日本語のじゃんけんで行ったこと、本番の音楽にタイと日本で知られている共通の曲（BNK48 の恋するフォーチュンクッキー）を使ったことで、より盛り上がり日本文化にも触れてもらうことが出来た。
- ・ 最後にこの競技をしたことで、チーム以外でも、みんなで楽しい思い出を作ることが出来た。

③改善点

- ・ タイの先生への伝え方が甘かったことと確認不足により、再度中に入ってきて音源をつけようとした際、パソコンが使えず、藤山先生にスピーカーを借りることになった。そのため、場所によっては聞こえづらいところが出来てしまった。
→ いつ音響を使うか、運動会全体を通して分かりやすく、細かく伝える。
- ・ 閉会式の準備完了前に、競技自体が少し早く終わりそうになって、終わり方を見失った。
→ 閉会式の準備の具合を見計らい、音楽の長さを工夫するなどして臨機応変に対応する。
- ・ 1 位になった子に景品があれば良かった。

- ・じゃんけんに負けた後、競技が終了するまでの時間が少し長く、退屈そうにしている子もいた。
→2 つに分けて行えば良かった。

(8) 閉会式

①内容

順位を 3、2、1、4 位の順で発表し、1 位のチーム 1 人 1 人に景品の手作りの金メダルを掛けてあげた。また、生徒全員に参加賞としてラムネを贈った。

②良かった点

- ・3 位から順番に順位発表したおかげで、とても盛り上がった。
- ・1 位のチームに前に出てもらい景品を渡したので、特別感があった。

③改善点

- ・景品（クッピーラムネ）がタイの人たちに好まれなかった。
→辛いものが良かったのかもしれない。
- ・現地の学校から歓迎の貰い物が多かったので、こちらも景品の内容をもう少し豪華にしても良かった。
- ・時間が押していたので、予定していた音源を流せなかった。
→もう少し細かいタイムスケジュールを用意すべきだった。

(9) その他

①タイプロメンバーの役割分担と競技の参加について

- ・去年の反省を活かし、タイプロメンバーで 1 人 1 回は競技に参加できるようにした。
→タイプロメンバーもできるだけ競技に参加することにより、生徒たちと交流を深めることができた。
- ・運動会班が先にタイプロメンバーのチーム決めを行い、その後チームの中に誰かが残って子供たちと交流できるように役割を決めた。

②BGM について

- ・予めクリップボックスを用いてスマートフォンに入れておいた音源を、現地の学校のスピーカーに繋げて流した。
- ・競技の雰囲気にあった曲を使用したので、雰囲気づくりに非常に役に立った。
- ・なるべくタイの人が知っていそうな日本の曲にすると、より盛り上がりを感じた。

③休憩

- ・外で行う競技では、競技が終わるごとに学校側が用意してくれたテントで休憩した。
- ・生徒たちは自分たちの水筒で、タイプロメンバーは学校側が用意してくれた飲み物で水分補給をした。
- ・非常に暑かったので、決まった休憩の時間を取っていたのが良かった。

④得点について

- ・得点は全競技 1 位 20 点 2 位 15 点 3 位 10 点 4 位 5 点 とした。
- ・得点表を皆が見られるよう用意し、最後の競技の前に外すことでワクワクしてもらえるようにした。

5. 結果・成果

(1) 『現地の子供たちに日本の運動会という文化を知ってもらい楽しんでもらうことができる。』について

この目的のため、チームの名前に日本の文化を象徴するものを使ったり、準備体操にラジオ体操を取り入れたり、競技も全て日本人になじみの深いものだったので、現地の子どもたちに日本の運動会を知ってもらえた。

日本の文化を現地の人に知ってもらうのと同時に、自分達もタイの文化や言葉を運動会によって知るきっかけになった。全員参加できる競技が多かったり、じゃんけん列車が順位の関係がなかったり、運動が苦手な子でも楽しめる運動会にできた。この運動会により、日本のことにより深く興味を持ってくれたと感じている。

(2) 『タイプロメンバーが運動会を運営するにあたって PDCA サイクルを体得できるようになる。』について

それぞれの競技の資料の作成 (Plan)、実行 (Do)、タイプロメンバーに意見をもらうことで客観的な立場からのアドバイスを受ける (Check)、班員で話し合い改善する (Action) といったサイクルを何度も繰り返した。例えばしっぽ取りの場合、しっぽの集計方法で苦戦していたが、このサイクルを用いたことで本番はスムーズに進行することができた。このように、運動会を運営することで、社会で役立つ PDCA サイクルを体得できたと考える。

6. 全体の振り返り

(1) 良かった点

- ・通訳をしてくれる EDF のジョークさんと長田さんと前日にミーティングを行い、企画内容を把握してもらっていたので、生徒たちにルールを早く理解してもらうことができた。
- ・学校側にも用意してほしいものを前日に連絡していたので、スムーズに企画を始めることができた。
- ・時間内に企画を全て行うことができた。

(2) 改善点

- ・得点表の場所決めを先に行っておくべきだった。
 - ・始まりの時間がずれることも予測しておくべきだった。
- 起り得るトラブルの対処法をリスト化しておく。

7. おわりに

前日のミーティングで変更点が多かったことと、競技の直前に急に変更を行ったことは、反省しなければならない点である。しかし、前日にメンバー全員が自身の役割をしっかりと確認したことにより、大きなトラブルはなく、運動会を無事に終えることができた。運動会中の子供たちの楽しそうな笑顔を見ることができ、本当に頑張ってくれたと思う。また、直前の変更やトラブルがあった中で成功できたのは、通訳してくれた長田さんと EDF のスタッフの方々、藤山先生や TA さん、学校の先生方の協力があったからこそだと思うので、感謝の気持ちでいっぱいである。

たった 2 時間の運動会でさえ、昼休みや空きコマを利用した会議をたくさん行わないとできなかったのも、日常にあふれているイベントの一つ一つはたくさんの人の努力によって開催されていることを知ることができた。今回の運動会を運営することで得た経験や知識を、今後の活動に繋げていきたい。

パフォーマンス

～日本の音楽で楽しもう～

長谷川夏芽 相川明音 佐藤あいり 杉本愛 谷口紗彩

1. 概要

日本のヒットソングを、ダンスを交えながら披露した。使用曲は星野源の「恋」、Foolinの「パプリカ」、SMAPの「Joy!!」の三曲である。初めて聞いた人でも盛り上げられるような選曲をし、「Joy!!」では日本らしい振付や道具を取り入れた。

2. 目的

日本の文化を知ってもらう。交流を深める。

3. 実施方法・内容

(1) 事前準備

11月中旬に曲を決め、12月中旬には振付が完成した。「恋」と「パプリカ」はYouTube、「Joy!!」はパフォーマンス班の振付動画を送り、全体での練習がスムーズに進むように個人で練習を進めた。年末までに集まったのは三回ほどで、あとは一度会議後に全員で練習をした。全体での練習の際にはリーダーが前で踊り、振付の細かい部分を教えた。現地で使用する音源はパフォーマンス班が編集し、USBに保存して持って行った。紛失などに備え、USBは三つほど用意して班のメンバーが管理した。第二回合宿では全体の流れを確認し、完成に近い状態に仕上げた。



(2) 現地での当日までの流れ

・Maehopra Wittayakom School

前日の夜にリハーサルをし、細かい部分の確認をした。USBは前日に現地の先生に渡して音源を取り込んでもらった。当日は本番の前に時間があつたため何度か練習をして流れやフォーメーションを確認した。最後にソーラン節を追加することが急遽決まったのでその動きの確認をした。

・Satit Kaset MP

ホームステイで前日の夜は集まれなかったので、道具を忘れないようにLINEで呼び掛けた。音源は本番の少し前に現地の先生に渡して軽く打ち合わせをした。本番の前の練習時間はなかった。

4. 結果

Maehopra Wittayakom Schoolでは生徒達が手拍子などをしてくれてとても盛り上がり、一緒に楽しむことができた。最後にソーラン節を追加してステージから降りて一緒に踊ったことで一体感が生まれた。Satit Kaset MPでは生徒たちを巻き込んで楽しませられなかったが、明るい雰囲気ですりきることができた。

5. 成果

ダンスの中に歌舞伎や盆踊りの要素を取り入れ、けん玉や扇子などの小道具を使ったことによって日本の文化が伝わったと思う。特にけん玉は成功するかわからないドキドキ感があって盛り上がった。メンバー全員が成功させたいという思いをもって短い練習期間の中で一生懸命練習し、直前の確認もしっかりできたので自信をもって楽しく踊ることができた。音楽やダンスは、言葉や文化の壁を越えて人の心を繋ぐということを実感した。

6. 反省

Maehopra Wittayakom School では、ソーラン節を追加してステージから降りて踊るということが直前に決まり本番でバタバタしてしまったので、もう少し早く計画を立てるべきだった。Satit Kaset MP では、生徒が見ているだけになり盛り上がり欠けたので、ステージから降りて一緒に踊ったり曲の前に手拍子をお願いしたりして工夫すればよかった。音源を流す人を確認できていなくて始まるまでに間ができてしまったので打ち合わせを入念にすべきだった。小道具の紛失や忘れ物があったので、名前を書いて個々が責任を持って管理するか一人がまとめて管理するかにすべきだった。

7. 後輩へのアドバイス

小道具（けん玉）が壊れて困ったことがあったので壊れやすいものを使う場合は予備を用意しておくといい。また、音源や役割など現地での直前の確認を入念にしておくことと本番がスムーズに進む。本番の直前に練習時間が無い場合もあるので渡航前にできるだけ仕上げることを意識してほしい。生徒を楽しませることだけでなく、自分たち自身が楽しんで踊れるような曲選びや雰囲気作りが重要である。思うように盛り上げられなかったりハプニングがあったりしても笑顔を絶やさないでほしい。



和歌山大学、和歌山・日本紹介

竹中杏由紀 今尾文香 為沢友月

1. 概要

- ・和歌山大学、和歌山県の紹介をタイの方に分かりやすいように企画する。
→タイの方が理解できるように、写真やイラスト・簡単なタイ語などを使用する。
- ・参加型の紹介にする。

2. 目的

- (1) サティカセ（KUSMP）の方々に、日本には四季があり季節によって特産品が異なることを理解してもらい、和歌山大学について知ってもらう。
- (2) 農村の子供たちに楽しみながら、日本・和歌山・和歌山大学に興味を持ってもらう。
- (3) TP9 メンバーが、異文化の人に自国、自地域について伝えるためのアプローチを体得できるようになる。

3. 実施方法、内容

時間や紹介する対象の年齢を考えて、農村とサティカセで紹介内容を変えた。（右図参照）

(1) 紙芝居、〇×クイズ（農村）

紙芝居：

パワーポイントを使ってイラストを描き、スライド機能を使用して紙芝居風に発表をした。小学生の年間行事とともに季節を説明した。

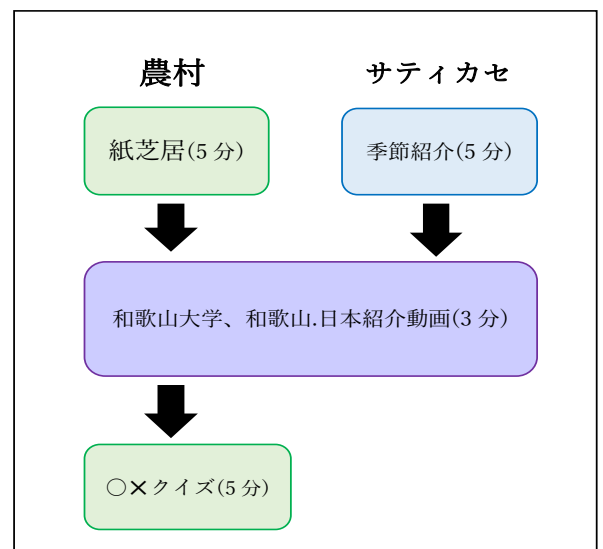
【春→入学式、夏→プール開き・夏休み、
秋→運動会、冬→書き初め、伝承遊び】

〇×クイズ：

紙芝居・動画の内容から、理解力を深めるためにクイズを出した。パワポにまとめたものをスクリーンに映しながら通訳の方に1文ずつ訳してもらい、全部で以下の5問出した。「〇か×か？」の部分は、自身がタイ語で呼びかけた。〇か×かの時に、〇×のジェスチャーを前に出てきてくれた5人ほどのタイプロメンバーと一緒にいった。

- ①日本の小学生の夏休みの宿題は一つ作文を出して終わりである。〇か×か？
- ②日本の小学生の入学式は冬に行われる。〇か×か？
- ③和歌山大学には4つの学部がある。〇か×か？

- ④和歌山紹介の動画の中で動物が2匹出てきましたが、その一方はネコですが、もう一



方はゾウである。○か×か？

⑤和歌山紹介の動画で使われていた BGM は BNK48 の恋するフォーチュンクッキーである。

○か×か？

(2) 季節と果物プレゼン（サティカセ）

パワーポイントを使って四季とその季節ごとに和歌山で収穫される果物を紹介した。

【春→いちご、夏→桃、秋→柿、冬→みかん】

各季節の平均気温も記載したことで、タイと日本の違いを具体的な数字で示せたため、生徒たちの理解をより得ることができた。スライドショーを行いながら英語でどんな季節かを説明した。

(3) 動画（農村、サティカセ）

① 和歌山大学紹介

和歌山大学の主に学部紹介に重点を置いて紹介動画を作成した。4 学部がどのような学部なのかを言葉で説明し、授業の様子や学部等の様子などを動画に盛り込んだ。また、そのほかには食堂や図書館、大学内にたくさんいる猫の紹介もした。サティカセでは英語で、農村では日本語をタイ語に翻訳してもらって紹介を行った。

② 和歌山・日本紹介

和歌山・日本の順で 3 分 14 秒の動画を作成した。BGM は BNK48 の「恋するフォーチュンクッキー」でお送りした。動画の合間に少しずつ説明も挟んだ。

動画内容（和歌山）：高速道路から撮った和歌山→和歌山城からの夕日→那智の扇まつり→和歌山城→パンダ→みかん収穫→那智の滝→生石高原→円月島→たま電車→一枚岩→すさみの夫婦岩

動画内容（日本）：イルミネーション→もみじ→路面電車→メリーゴーランド→正月→茶道→USJ→スイカ割り→雪→道頓堀→太鼓→だんじり→桜→よさこい→神社

4. 結果、成果

農村

- ・雪などの馴染みのない文化を知ってもらうことができた。
- ・○×クイズは腕を使ったことと、○と×をタイ語で呼びかけたことで盛り上がった。また、タイプロメンバーの数人にお手本として前に出てもらうことで、子ども達も積極的に腕を使ってジェスチャーをしてくれた。
- ・タイと日本のつながりがあり、現地の子も知っている BNK48 の曲を使ったことで楽しんでもらいながら動画を見てもらうことができた。
- ・紙芝居では、事前に自分たちが予想していた年齢と実際の子供たちの年齢にギャップがあったため、想定していたような反応を得られなかった。

サティカセ

- ・事前に準備していた〇×クイズを時間が足りず行うことができなかった。
- ・各季節の気温を目で見える形で表すことで、タイの季節と比較でき、子供たちの反応もよかった。

5. 伝えたいこと

- ・日本でたくさん準備をしていたとしても現地に行ってから気づくこともあるため、藤山一郎先生に最終確認をしてもらうことは大切。
- ・練習時も本番時も時間を測りながら行うことで、後の改善や反省に活かせる。

6. 終わりに

去年の反省を活かして、写真だけでなく紙芝居や動画、音楽、ジェスチャーなどあらゆる要素や動きを取り入れることで、聞いている側が楽しめるような紹介を作成することが出来た。しかし、発表の準備や練習は渡航前も行っていたが、発表の日の前日になって課題が見つかってしまい大変な思いをしたので、詰めの甘さを実感した。準備しすぎるに越したことはないと学んだ。初めて動画作成を行って、その大変さを実感した。だが、タイの生徒たちが喜んでくれて、その努力が報われたように感じた。今回の動画作成に当たり、多くの方が協力して下さったことに感謝したい。ありがとうございました。



英語ディスカッション

相川明音 杉本愛 辻智弘

1. 概要

Satit Kaset MP の学生と和歌山大学の学生が各 6 テーマに分かれ、英語でディスカッションを行う。

2. 目標

日本とタイの学生という、価値観や宗教、生活環境が異なる者が一つのテーマを議論し結論を出すことで文化の交流を目的とする。



3. 事前準備

- (1) 6 つのテーマを決める。
- (2) テーマに関連する情報を集める。
- (3) 意見をまとめ、パワーポイントを作成する。



4. 実践

テーマ

以下の 6 テーマに沿ってディスカッションを行った。

- (1) Which jobs are most likely to be under threat by Artificial intelligence.
人工知能によって今後なくなる職業はなにか。
- (2) What would the world be like in terms of peace, if there were no sporting events, such as the Olympic Games, ASEAN Games, World cup Football.
オリンピックやワールドカップがなければ平和の観点から世界はどうなるだろうか。
- (3) Which food would you eat first, the one you like or you dislike?
好きなものを最後に食べるか最初に食べるか。
- (4) Apart from being a human, what would you like to be if you were born again?
人間以外で生まれ変わるなら何になりたいか。
- (5) If there is a time machine, which would you go, the future or the past?
タイムマシーンで行くなら過去か未来か。
- (6) It's the last day to the world, what would you do?
明日世界が終わるなら何をするか。

形式

各班形式の詳細は異なるが、全体的にどの班も以下の流れで行われた。

- ①自己紹介。
- ②Satit Kaset MP の学生、和歌山大学の学生による PowerPoint を用いたプレゼンテーション。

③メリット班とデメリット班に分かれディスカッションをする。

④模造紙にまとめる。

その他、Satit Kaset MP の先生が挙げたシチュエーションについての意見をその場で考えたり、学生同士で質疑応答をしたりする班もあった。

5. 結果

[良かった点]

- ・スムーズにプレゼンを終わらすことができた。
- ・現地の学生に質問できたことで、彼らの歌を聞かせてくれたり、動画を見せてくれたりし、議論だけではない交流ができた。
- ・和やかな雰囲気で行えた。
- ・スライドには動画を挿入するなどの工夫ができた。

[反省点]

- ・準備が不十分だった。(パワーポイント作成、構成の深さ、時間調整)
- ・質問されたとき英語が理解できず戸惑ってしまい話が深まらなかった。
- ・テーマが簡単であったため、余った時間で日本を紹介すればよかった。
- ・Satit Kaset MP の学生の英語力に圧倒されてしまった。
- ・会話のキャッチボールがあまりできなかった。

6. まとめ

どのテーマも和気あいあいとした雰囲気でのコミュニケーションがとれ、目標である文化交流は達成できたと思う。

全体的に反省点として準備不足が挙げられた。パワーポイントに動画を挿入した班もあれば、台本を見ずに発表した班もあり、各班の工夫が見られたが、英語ディスカッションは渡航前の会議であまり取り上げず、各自進めていたので、進行状況や工夫を随時共有することで、より良いプレゼンテーションをつくることができたと思う。

7. アドバイス

直前に切羽詰まってしまうないように、渡航前にリハーサルをして完璧にさせておくことが重要。また、ディスカッションの余った時間で Satit Kaset MP の学生がテーマに関連するタイの文化を紹介してくれた班もあった。そのため、時間が余りそうであれば、テーマに関連した写真やパワーポイントを用意すると話を広げることができる。

流暢な英語を話すことより、簡単な単語を使って内容を伝えることを重視して、コミュニケーションを楽しむことを大切にしてほしい。

交流企画「ソーラン節で“どっこいしょ”！」

杉本愛 阪中梨乃 佐藤あいり 辻智弘 歳弘爽由花 戸田達也

1. 概要

日本の学校でよく踊られているソーラン節を Satit Kaset MP の学生にも知ってもらい、一緒に踊る。

2. 目標

- (1) 現地の学生が日本のソーラン節を知ることができる。
- (2) 言葉の壁があっても、音楽やダンスというアプローチで楽しい時間を共有できる。

3. 準備

(1) 渡航前

- ①当班は、時間割の都合上全員そろって会議をする機会が取りづらかったので、企画内容を考えるときは、できるだけ複雑でない流れになるように意識した。
- ②現地には音響設備の準備を依頼した
- ③1月から、使用する音源（USB）を作成し当班で振付を完成させた後、他のメンバーに振付を教えていった。振付は現地の学生がすぐに覚えることができるように、~~2~~2つのパート（AとB）に分け、踊らない部分をつくることで曲の長さ（2分半ほど）に対して覚える量を減らした。
- ④第2回合宿では、振付の確認と実際の流れの確認を行った。班ごとに現地の生徒に踊りを教えるときどのようにするのかを考えてもらった。
- ⑤使用するものとしてメッセージ（「ありがとう」「こっぷんかー」「ขอบคุณ」）を習字で書いた紙を作成し、法被とハチマキを購入した。



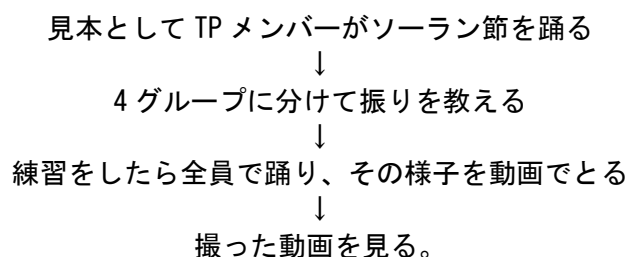
練習風景

(2) 渡航中

- ⑥当日物品は、同じ種類のものを何人かに分けて持って行くと準備に手間取るというチェンマイでの交流の反省点を活かし、交流の前日には分担して持っていたハチマキを1人が集めて持って行った。
- ⑦現地についてからは、現地の先生と打ち合わせを行った。そこでは、事前に参加する生徒を4グループに分けることを依頼し企画内容についての確認を行った。

4. 内容

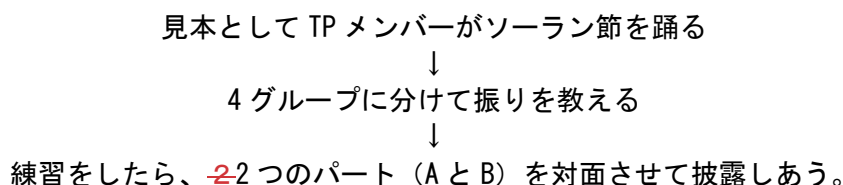
渡航前に企画していた内容は以下の通りである。時間は 50 分間である。



ただ踊るだけでは面白みがないので、一体感や達成感が生まれるように動画を撮ってその場でみることにした。動画を見たときのサプライズとして、ソーラン節の最後に全員が中央に集まるところでメッセージの書いた紙をカメラに向けて披露し、動画を見たときメッセージが見えるようにした。

しかし当日の打ち合わせで、撮った動画を直ぐに見せることはできないとなったので、当日に企画内容を変更した。

実際に行った内容は以下の通りである。



A が踊っているとき、B は踊らないといった振付の構成をつくっていたので、全員が一斉に踊っても、披露しあうという形をつくることができた。2 回に分けず一斉に踊ることで、50 分という短い時間のなかでも練習をする時間を長くとることができた。



5. 結果

【目標について】

(1) はあまり達成できなかったと考える。踊ることでソーラン節を知ることはできたと思うが、ソーラン節が歴史的にどのようなものであるかということについては簡単にしか伝えられなかった。50 分で完了させるのが少し厳しい内容であったため、説明の時間を削ってしまったことが原因である。また、日本語での説明であったため現地の学生に伝えるのが難しい内容であったかもしれない。

(~~2~~2) は達成できた。班に分けていたことで現地の学生一人一人がタイプロメンバーと言葉を交わすことができたのではないと思う。交流した学生との距離が縮まり、廊下ですれ違おうと手を振ってくれる生徒がいたり、休み時間にサッカーやバスケットボールをしたりして一緒に遊ぶことができた。

当初の予定から当日の打ち合わせで変更した点があったが、なんとか時間内におさめ、現地の学生に楽しんでもらうことができた。これは、タイプロメンバーが変更にも対応してくれたことと、現地の先生方や TA の協力が大きかったと考える。



6. 振り返り

(1) 良かった点

- ・ソーラン節は言葉が上手く通じなくても見せるだけでわかりやすい動きであった。
- ・言葉が伝わらない部分を身振り手振りで補うことができた。
- ・日本語クラスの学生にとって、日本語を交えて会話がたくさんできたことは有益であったと思う。
- ・法被とハチマキで日本のものを見せることができた。

(2) 反省点

- ・初めの方はどういう風に説明すれば良いか困ってしまったので、事前にイメージトレーニングをする場をつくれればよかったかもしれない。
- ・日本語よりも英語が得意な学生が多かったので、英語を交えて教える練習をしておけばよかった。
- ・振付を教える人が固まってしまったグループがあった。
- ・スカートの学生を考慮できていなかった。
- ・編集する前の音源も USB に入っていたので見本の時にそれが流れてしまった。実際に自分で画面を見て使いたいファイルを指定できない場合もあることを考えて、消しておくか名前をわかりやすくすべきだった。

7. アドバイス

渡航前は、企画内容の準備も大事だが、実際行うときのコミュニケーションの取り方もしっかりイメージしておくとともにさらに良いものになると思う。したがって、第2 回合宿までには内容を固め、企画班のなかでは当日のイメージの共有をしておく、第2 回合宿で全メンバーが企画内容を理解し、より実践的なリハーサルを行うことができるだろう。また、そのリハーサルでは言葉が通じにくいということを念頭に置いて、現地の生徒役と TP メンバー役に分けてのシミュレーションもしておくといいだろう。



フリーマーケット

西尾麻耶 田岸来実 歳弘爽由花

1. 概要

バンコク近郊でボランティアの一環として、フリーマーケットを行う。現地の人とコミュニケーションを通して、日本の魅力を伝えることができる商品を中心に販売する。

2. 目標・目的

- (1) 現地の人に日本の魅力を知ってもらい、興味を持ってもらう。また、日本を身近に感じてもらう。
- (2) タイの通貨・パーツの仕組みを学びながら、全商品を売り切る。
- (3) フリーマーケットで集めたお金を、EDF の教育機関に支援事業のため寄付をする。

3. 準備・企画

[事前準備]

- ・メンバーは1人5個ずつフリーマーケットで売りたい商品を持参
- ・観光学部1年生から商品の募集（観光学部1年のグループLINE活用）
- ・商品を買ってくれたお客さんに渡す折り紙の作成
- ・効率よく店番を行うため、3班に分け班内で役割分担（売り子・会計・渡し手）
- ・合宿でのリハーサルにむけた準備
- ・商品を入れる袋の準備
- ・看板、ポップの準備
- ・商品の価格を示すタックシールの準備

[渡航中準備]

- ・EDFの方による商品価格の決定
- ・タックシールに価格を記入し商品に張り付ける作業
- ・EDFの方と本番の流れを確認
- ・タイムスケジュールの確認

[事後確認]

- ・お金の集計
- ・記念撮影
- ・フリーマーケット全体の反省

[スケジュール]

- ・18時フリーマーケット開始（19時終了予定）
- ・各班20分ずつ担当（20分×3班）
- ・終了時間が19時から20時に延長したため、19時以降は全員で担当



4. 商品説明

売れ行きが良かったもの	最後のほうまで残ってしまったもの
日本のアニメグッズ（ワンピースなど）	しおり
アクセサリー	着物
子供向けグッズ	習字

5. 成果

売り上げは、タイバーツで 4015 バーツ（日本円で約 14000 円）だった。フリーマーケットの日時が休日から平日に変更したためお客さんが少なく、時間も押してしまい当日に多くの問題が発生したが、臨機応変に対応しながら活動をすることができた。また、終盤で値下げを行い全て売り切ることができた。最終的にフリーマーケットで集めたお金はボランティア活動の一環として EDF の教育機関に寄付し、貢献した。

6. 振り返り

良かったことは、お客さんと言語が違うにも関わらずコミュニケーションをとり、呼び込みを積極的に行っていたことである。また、トラブルなくフリーマーケットを行えたことも良かった。

悪かったことは、当日忙しく役割が曖昧になってしまい、役割分担の成果が出なかったことである。また事前準備の際、観光学部 1 年生から物品を募集し多くの人に協力してもらったが、LINE を活用するより個人的に声をかけたほうが協力してもらいやすい。



7. 後輩へのアドバイス

今回のフリーマーケットから来年に活かしてもらいたいと思うことが大きく 5 つある。

- (1) 商品一つ一つに値段を記入できるタックシールを準備すると良いと思う。
- (2) タックシールを使う場合、商品を購入してもらった際に、はがすかはがさないかを事前に話し合い全員で統一すると良い。タイはおつりを受け取らない文化があるため、タックシールに書かれた値段を合計しても売り上げと異なることがあるためである。
- (3) 日本のアニメグッズは人気で高く売れるので、アニメグッズを商品として売ると良い。特にワンピースのグッズが人気であった。
- (4) 受け渡し用の袋を事前に用意していたがほとんど使用しなかったため、袋を用意する際は必要最小限で良い。受け渡し袋は、持ち手があると更に良くなると思う。
- (5) 商品を持ちながら呼び込みを行うと、お客さんを引きつけることができるので、商品を持ちながら積極的に呼び込みを行うと良い。また、タイプロメンバーの服装が統一していると団体感がでて良い。

企業見学

辻智弘 戸田達也 中橋遼大

1. 目標

他国で働くとはどういうことか、またタイ人の働き方と比べ日本人が誇るべき点また改善すべき点は何かを学ぶ。

2. 事前準備

DAIKIN INDUSTRIES THAILAND（以下DITとする）がどういう企業かについて調べたいプログラムのメンバーに共有した。また訪問する際に目標を達成するためにどういった質問が必要かをみんなで話し合った。

3. 企業概要

DAIKIN INDUSTRIES は日本の大阪府に本社を置き、世界五大陸に約 40 カ国に拠点を持つ空調機、化学製品の世界的メーカーである。特に DIT では家庭用エアコン、業務パッケージエアコンなどを開発、販売、物流まで一貫した独自システムを利用し商品をお客様に提供している。また DIT は開発している生産システムや設備が、私たち個人、地域社会、国、そして世界の環境を守ることも目指している。

4. 質疑応答

(1) 日本人とタイ人が共に働く上で大事にしていることは何か。

- ・タイ人の気質を理解し、日本の考えを押し付けない。
- ・いくら注意しても聞いてくれない時もあるので、ただ怒るというよりはきちんと指導することを心がけている。
- ・よかったところはきちんと褒める。

(2) 海外と日本どちらの方が働きやすいか。

- ・衣食住の観点から見るとタイは生活環境がよく働きやすい。
- ・タイ人は日本人より優しい人が多いところが良い。
- ・ニューイヤーパーティーやファミリーデーといった、従業員や従業員の家族みんなで楽しむイベントが設けられているのが良い。
- ・毎年、参加率が 8 割ほどもある慰安旅行を開催しており、リフレッシュする期間が設けられている。

(3) タイに来て気づいた日本の誇ることができる点は何か。

- ・日本人は深く考えて行動できる人が多い。

(4) 日本人とタイ人の仕事に対する考え方の違いは何か。

- ・もちろんタイ人もお金のために働いているが、会社が言わなくても社会貢献を進んで行う人が多く、自分のできることは進んですることが大事だと考えている人が多い。
- ・お金のある人は進んで、他の人や恵まれていない人にお金を与えるのは当たり前だと考えている人が多い。

5. まとめ

私たちはDITの見学を通じて、他国で働くとはどういうことか、またタイ人の働き方と比べ日本人が誇るべき点あるいは改善すべき点を学ぶという目標を掲げて見学に臨んだ。質疑応答を通じて日本人の考えを押し付けないことの重要性、日本人と外国人との気質を理解するなど多様なバックグラウンドを持った人々とコミュニケーションを取る上で必要なことを学ぶことができた。この企業訪問で学んだことを、今後、よりグローバル化する社会の中で活かしていきたい。



第四部

～まとめ～

ここまでお読みいただきありがとうございました。さて、報告書もそろそろ大詰めです。

第四部は、事前講義・渡航・事後講義をふまえたまとめの部になっています。ぜひ最後まで目をお通しください。

個人体験記

人生観

戸田 達也

私がタイプロに応募した経緯は、将来について考えるきっかけを作り、いろんな人と交流して刺激をもらいたいと思ったからです。結果としてその目的は達成できたと思います。現地の高校生やホストファミリーと交流してたくさんの良い経験ができました。そしてなんといってもタイプロメンバー。最初のプレゼンでみんなが一生懸命メモしている姿を見て正直びっくりしました。みんな私が会ってこなかったタイプの人たちばかりで良い刺激をたくさんもらいました。

ここから本題に入りますが、タイプロに入って人生観が変わったと思います。というのは、私は今まではお金持ち・社会的に評価される・便利なもののほうが良い、というように効率的で楽に生活することを望んでいました。しかしタイプロを通して、その考えは変わりました。私たちはチェンマイとバンコク両方行ったのですが、チェンマイはバンコクに比べ古都ということだけあり、少し昔の時代のように感じました。しかしチェンマイのほうがわたしにとっては魅力的でした。これといった理由はわかりませんが、おそらく人間らしさを感じたからだと思います。両方の都市を比べチェンマイの方は笑顔が多いように感じたし、チェンマイの人が「自然が多いことが誇りである。」と言っているのを聞いて感銘を受けました。今の時代は常に利便性を追いかけています。そしてその利便性が人間性をどんどん奪っていくのです。いつかその利便性に線引きをしなくてはいけない時代が来ると考えると、人間性とは何かという問題を私たちは認識し、かつ答えを導き出さなければいけません。現在の社会は利便性を追いかけていますが、人間性も追いかけるべきではない、追いかけてほしい、そういったことをチェンマイとバンコクは教えてくれたし、思わせてくれました。

タイ・プログラムに参加して本当に良かったです。人生観も変えてくれたし、さまざまな点において成長できました。そして何より志が高い仲間ができたことがうれしいです。これからがんばっていきましょう！

先入観

相川 明音

渡航前私は、タイはバンコクから一歩外に出ると、まだまだ国際協力という言葉と隣り合わせの国だと考えていました。しかし、極端に貧富という観点でタイを捉えていた私の考えは12日間で覆されました。

想像どおり、チェンマイは自然が豊かでどこか生活感があり、バンコクはネオンの表示が煌びやかで近代的でした。しかし、その高々としたビルの足元では惣菜がポリ袋で渡されるような、タイの生活が消えることなく根を張っていました。想像とは異なり、タイは新しい文化、従来の生活、観光地が入り混じる面白い国でした。観光地巡りをしただけなら、こんな国なのだと納得して終わってしまっていたかもしれませんが、タイ・プログラムで事前に照らし合わせる情報を頭に入れていたからこそ、ギャップに驚き、事前学習後も偏見や先入観を持っていたことに気づかされました。実際に自分の目で見て、人と関わり、日常に触れたことが基となり、私のイメージするタイが大きく変わると同時に、先入観を捨てるには実体験が大きく関わることを実感しました。

タイ・プログラムに参加し、あるメンバーの「日常にお邪魔させてもらっている感覚」という発言にハッとさせられ、スラムツーリズムのような発展と日常と観光の在り方に興味を持ち、深く学びたいと考えています。

プログラムが私の視野を広げる源となったのは、意見を共有してくれた16人のメンバー、先生、TAの方々のおかげです。心から感謝しています。

タイのすべて

今尾 文香

私がタイ・プログラムに参加したきっかけは、なんとなく海外に行ってみたいという軽い思いでした。そのため、最初は授業がかなり大変でした。自分で一から考えなければならないことが、これほど大変とは思っていませんでした。しかし、授業を重ね、交流していくにつれて出来上がる企画達に大変さよりも楽しさが上回りました。

現地に行ってみて、驚きがたくさんありました。東京並みに発展しているバンコク中心のビル群、高速道路や列車、またタイ特有のトゥクトゥクなどの乗り物や二月なのに熱気あふれる気候など、知識では知っていても実際に経験すると感動しました。また、都心部の急速な発展の裏側にある経済格差や地域による発展の差を感じました。日本以外の国の現状を見ることは、私の狭くなっていた視野を広げてくれました。

企画の面では、想定外の事態への対応力の高さがまだまだ自分には足りないことを実感しました。動画が重くてなかなか流れなかった和歌山紹介、想定より時間が短くなり焦る縁日など、特に交流企画に関しては息をつく暇もありませんでした。最終的にはどの企画も現地の生徒たちに喜んでもらえるものになり、とても嬉しかったです。

最後は、行った国がタイでよかったと思えるようになりました。

タイ・プログラムを通じて

阪中 梨乃

私がタイ・プログラムに参加した理由は、タイという国について、以前から形容しがたい魅力を感じていたから、それと大学生活が退屈だったからです。

準備の期間では、渡航という目的に向かうことで大学生活に張りが出て、充実していく実感がありました。また、考えを共有することで違う角度から物事をみるができるということ、計画を立て目の前のことから着実に進めていくことの大切さ、などを体感しました。

渡航中では、調査班の研究内容の疑問、自分が興味を持っていたことについて明らかになることを期待していました。しかし実際には、明らかになったこともあります。それ以上に様々な疑問をもち、考えれば考えるほどよくわからなくなっていくこともありました。ただ、約2週間、密度の高い体験の中で、感情が動くことの貴重さは計り知れません。関わってくださったすべての方々に感謝します。

途中で感じた客愁も感動も時間と共に鮮度を失ってしまうものだと思います。しかし、それら多くのことをしっかり咀嚼して自分の中に落とし込みたいと思います。それだけにとどまらず、無知を自覚し、エネルギーをもってこれからも行動していきたいです。

タイ・プログラム9期のメンバーとして、このプログラムに参加することができ、本当によかったと思います。藤山先生、TAさん、9期の皆さん、本当にありがとうございました。

やってみて気付くもの

佐藤 あいり

私は視野を広げ、柔軟な考えが出来、他人の価値観も理解出来る人になるために海外に行きたいと思い、タイ・プログラムに参加しました。

実際タイに行ってみて、異文化で生活する人と交流することで、価値観や当たり前の違いを理解して、視野を広くすることが出来ました。全ての事が新鮮でとても充実した期間となりました。また、私は世の中に対して自分が無知である事も知りました。外国には今の自分では想像出来ない事があるし、日本の中にもまだまだ知らない事はあります。私は勇気を出して行動して努力しなければ見えてこないものが沢山ある事に気付きました。だから私は自分の理想に近づくためにもっとたくさんのものに挑戦してみたいと思うようになりました。

また渡航前後の会議を通して、目標を定め、計画を練り、実行し、振り返り、次に活かすという順序がとても大切だということが分かりました。この道筋は人生のどんな時でも必要になると思います。私はこのプログラムで得た事を活かして、これからも頑張っていきたいです。

今回、大変な時も頑張って楽しいプログラムに出来たのは、TP9 のみんなと関わって下さった皆さんのおかげです。本当に本当にありがとうございました。

タイで学んだ一期一会

角野 栄里

私は、タイ・プログラムに参加して、人生のひとときひとときを一期一会のものだと認識することの大切さを学びました。

まず、タイ渡航前の準備の際、自分の行動ひとつひとつが自分の選択であり、責任を持たなければいけないと強く実感しました。沢山のことを同時にやらないといけない時、どこかでスケジュール管理を曖昧にしていると、必ずボロが出てきます。余裕のあるときならば、気づいて修正できても、時間に余裕がなくなってくると、ひとつのミスで取り返しのつかないことになってしまうこともあります。だから本当に私は、ひとつひとつ自分のやるべきことをしっかり責任をもつことが大切だと思いました。

また、責任を持って行動するという事は時には苦しかったり、無理をしなければいけなかったりすることもあります。その一生懸命さや心からのおもてなしというのは人を本当に喜ばせることができるということも知りました。企画において、一生懸命自分のできることを考えて行動する9期のメンバー達は本当にかっこよかったし、企画や調査でタイの方々とコミュニケーションがとれたり、子どもたちが盛り上がってくれたりした時は感動しました。また、チェンマイやバンコクの子供たちや先生方のおもてなしは心がこもっているのが伝わってきて本当にうれしかったし、外国という会いたいと思ってもなかなか会うことのできない距離であったことは、その出会いの大切さや尊さをより深く感じさせてくれました。

このように、タイ・プログラムはひとつひとつの行動に責任を持つことと、ひとつひとつの出会いを一度きりのものと認識することの大切さを学ばせてくれました。これは、自分がどこにいて、どんな状況にあるとしても変わらないものだと思います。まだまだ自分は自分に甘いし、後回しにしてしまうこともあるけれど、タイ・プログラムで学んだことと、9期の仲間たち、失敗してもマイペンライ！の精神で、これからも色々なことに責任を持って挑戦し、成長していきたいと思っています。

日ごろ動きのない生活を送っている私にとってタイは刺激的な場所でした。

まず、タイ料理は辛いです。とくに初日に食べたグリーンカレーは私の口と胃腸に凄まじい刺激をお見舞いしてくれました。美味しいけど、痛かったです。

しかし、そんな辛過ぎて痛いタイ料理よりもタイで心に受けた刺激のほうが当たり前のように強く、こびりついて離れないでしょう。

初めて見る景色、初めて感じる空気感、異文化にふれること、計画した企画が無事終了していくこと、暖かい人たちと出会えたこと。13日間ずっと心を動かされて頭が追いつかないような感覚でした。沢山の経験から生まれた抱えきれない感動や発見は、混ざり合って一度に思い出すのが難しいほどです。もちろんこれは、渡航だけではなく事前活動があったからできた経験です。調査活動など、事前の学習がなければ興味を持たなかったものも沢山あると思います。知らないことの中には、知っているからこそ知らないことに気づくこともあるとわかりました。それから、人と意見を交わすことも大事だと再認識できました。会議など集団での活動は少し苦手ですが、みんなの頑張る姿や優しさに引っ張ってもらってできました。

大学生活に飽きていたからなんとなく参加したタイ・プログラムが、新たな学びの場となり様々な興味を引き出すものとなったこと、たくさんの経験ができたことはすごく幸せです。また、慣れてしまっていたものをひとつひとつ再発見することもできました。相手を思いやることは大切です。助けることも、助けてもらうことも大切です。受け入れることは大切です。前向きな気持ちも大切です。このような小さく大きな再発見とタイでの感動は、いろいろな場面で私をすこし後押しするものになると思います。

時間を忘れて夢中になれた場所

谷口 紗彩

「ずっと心がわくわくしていた。」 この1年間の活動を振り返るとまず初めにこの言葉が浮かんできます。私にとってこのプログラムの渡航が初めての海外経験でした。事前学習からタイという1つの国に焦点を当てて調査をしましたが、様々な視点から1つの事項に対してここまで深く掘り下げたことがなかったため、会議の度に新しい知識が増え、『知ろうとすることの面白さ』を学ぶことが出来ました。

また『自分たちで企画し、運営する』というタイ・プログラムならではの体験が私にとってすごく大きな財産になりました。元々、『企画をする』ということがやってみたくてこのプログラムに参加したのですが、実際にゼロから積み上げるということの中には『やってみないと見えてこないこと』がたくさん溢れていて、毎日が発見の連続でした。自ら企画したもので誰かを笑顔にすることの裏側には、目に見えないところまで気を配ることの難しさ、やり遂げた時に感じる楽しさが隠れていることを知りました。さらに、事前学習などを通して自分の中で描いていたタイのイメージとは異なる世界が広がっていた部分も多くあり、このことから、『表面上の世界』だけで物事を判断するのではなく、固定観念など、どこかで決められてしまっている枠にとらわれずに行動していきたいなと思いました。

このプログラムでは、世代と地域を超えた現地の人とたくさん触れ合い、観光を目的に足を運ぶ時とはまた違った視点から現地の良し悪しを直接感じることで、異文化を肌で感じました。個人の旅行では体験できないようなことにたくさん出会えるこのプログラムが大好きです。そしてなにより、どんな時でも笑顔いっぱいの9期のメンバーが大好きです。本当にありがとう。

私はなんて強運の持ち主なのだろう、と渡航を終えてこう思います。この個人体験記を書いている今、日本そして世界中の人がコロナウイルスの影響で自由を奪われた生活をしています。こんな状況下になって改めて渡航前の会議や合宿、そして少しの不安があったとはいえタイへの渡航や予定通りの帰国をできたことが、どれほど有難いものだったのかを感じています。そもそも、このプログラムに参加した先輩に出会わなければ、タイ・プログラムのことを知ることはなく応募もしていなかったと思います。優しくて個性豊かな面白いメンバーにも恵まれて…なんて運がいいのでしょうか。当然全てを運のおかげだとは言えませんし、先生やTAのお2人、EDFの方々の支えがあってこそだと思います。しかし、渡航の1.2か月後には飛行機に乗って他国に行くことはもちろん、学校に行くことさえもできなくなっているのは事実です。みんなの普段の行いにも感謝しなければいけません。

このプログラムを通して、私は人としても学生としても成長できたと言えます。いや成長してなきゃおかしい、って言えます。中でも1番の成果は自分が持っていた思い込みや先入観の大きさに気づけたことです。自分が思っていた以上に無知だったと知ることができたことです。虫なんて食べられるものじゃない。貧困格差が激しいのは勝手に農村だと決めつけていました。和歌山紹介では、農村の子供たちは「雪」自体を知らないギリギリで気づき絶望したのを覚えています。会議でみんなの意見やアドバイスから教わったことも多々あります。ただ、無知だからこそタイで多くの挑戦をできたのは間違いありません。

見つけた、気づいた、知った、思った。これらだけで終わらせたら意味がありません。これらをいかに自分のものにしながら成長するかが、私のこれからの課題です。タイ・プログラムに参加してできた経験は私にとって宝物です。

ワクワク！

為沢 友月

私が、タイ・プログラムに挑戦しようと思ったきっかけは、自分たちで一から作り上げていくという点に魅力を感じたからです。また、一年生の半分を終えた時点で新たな環境に身を置くことで、より自分が成長できるのではないかと思います。そしてこのプログラムは、日々私にワクワクをくれるものとなりました。

準備期間は、果てしなかったなと記憶しています。考えていることを言葉にし、伝え合い、より良いものになろうと頑張っていました。全ての企画を通して、一からみんなで考え、作り上げていくことは、もちろん大変ではあったけれど、今となってはその大変さが楽しさでもあったのかなと思います。

一瞬一秒も無駄にしなくなかった渡航中は、毎日楽しさと学びに溢れていました。全てのことを探求したくて仕方がなく、これは？あれは？とたくさんのことに疑問を持ちました。行動力も、よりアップしました。一方、自分たちが企画したものを実行していく中で、現地に行ってみて分かることも多くて臨機応変さが求められました。日本であれだけ準備しても、海外で実行するのはとても難しかったです。やっぱりどこかで潜在意識があったのかなと痛感させられました。それでも何とか企画が遂行されたときは、すごく達成感に満ちて、やってよかったなと心の底から思いました。また、タイの人々と言葉だけでなく笑顔を通して繋がれたなと思います。ここまでワクワクしたことを渡航後である今は、言語化しようと励んでいます。

ここまで、私が素晴らしい経験が出来たのは、藤山先生、TAのおふたり、メンバーはもちろんのこと、周りにいるいつも私たちを支えてくれる人々のお陰です。深く感謝いたします。みんなありがとう！

何も知らないであろう農村の子たちを、私たちが日本の文化で『おもてなし』をし、楽しませてあげたい。渡航前、私はこのように思っていました。きっと農村の子たちは日本のことなんてほとんど知らなくて、英語もほとんど話せなくて、スマホとかはまだ貴重で、スマホで日本らしい写真とか見せたら喜ぶのかな。本気でそう思っていました。しかし、それらはすべて私の思い込みにすぎませんでした。まず、私が想像していた以上にタイの子たちは日本のことをよく知っていました。日本の食べ物や地名だけでなく、中には人気爆発中の漫画『鬼滅の刃』について話をした子もいます。もちろんコミュニケーションツールは英語です。彼らは私なんかよりずっと英語が上手で、むしろこっちがついていくのに必死でした。そうしてコミュニケーションをとり仲良くなると、彼らは一人一台スマホをポケットから取り出し、私に「インスタ交換しよう！」と言ってきました。……あれ。おかしいな。私が想像してたのと全然違う。私のイメージでは…。その時初めて、自分が固定観念をもってタイに来ていたことに気が付きました。いつの間にか勝手に、自分はタイの農村の子よりも優位な立場にあるという風に思い込んでいたのです。しかし、実際交流してみると全くそのようなことはありませんでした。どちらが優位でも劣位でもない、対等な関係の交流でした。このことから、渡航前と渡航後で国際協力のイメージが私の中で大きく変わりました。優位の者が劣位の者を助けるというよりは、お互いがお互いの見える世界を豊かにするために協力する、そんなイメージを持ち始めました。

これらの固定観念が払拭されたおかげで、今までよりも少しだけ広い世界が見えるようになった気がします。

広がる視野

辻 智弘

僕が何よりもタイ・プログラムで得たことは沢山の出会いでした。そして、その出会いのおかげで視野が広がった事を僕は確信しています。タイ・プログラムを通じてやる気に溢れるタイプロメンバーはもちろん、タイの農村もしくは都市で暮らしている学生や先生、タイの日系企業で働く方々、フリマを通して出会ったお客さん、調査活動を通して出会ったタイの人々など本当に沢山の人達と交流する事ができました。

例えばタイプロメンバーからは自分には思いつかない様々な意見を得る事ができ、日系企業の見学では海外で働くとはどういうことか少しながら知る事が出来ました、また調査活動を通じて自分たちの知りたいタイのある側面をより知る事が出来ました。そして、何よりも僕は農村の学生、フリマのお客さんが印象に残っています。

農村では、彼らにとって初の外国人の受け入れということもあり、僕たちに伝統的な踊りや音楽を披露し盛大に迎え入れてくれました。そして実際に交流が始まると、例えばトイレの場所を訪ねた時にはトイレまで案内してくれたり、ご飯を食べている時に手が汚れているのを見ると席から離れすぐにティッシュを持ってきてくれたりと、とても温かく接してくれました。フリマでは、自分より恵まれない子供達に寄付をしていくお客さんが沢山いました、そしてフリマが終わった後に募金箱を見ると日本では考えられないほどのお金で埋まっていました。

日本は世界的にみて、おもてなしの精神があると言われています。しかし、実際にタイで経験したおもてなしと比べると、タイの人々から学べることはまだまだ沢山あると感じました。またフリマでは、自分より恵まれない人たちに何かするのは当たり前だという素晴らしい考えが多くの人に根付いているのだと感じる事ができました。日本でもこういった考えがあったとしても行動に移す人は少なく、ハッとさせられました。

このようにタイ・プログラムでは自分の見たことのなかった、知らなかった新しい考えや価値観を沢山の人から学ぶ事が出来ました。

最後に、こういった経験ができたのも、このプログラムをサポートしてくれた先生や TA の方々、一緒にこのプログラムを作り上げた9期の仲間、そしてタイでお世話になった人々のおかげです。ありがとうございました。

肌で感じたタイパワー

歳弘 爽由花

タイに降り立って初めて感じたことは「熱気」でした。気温もそうですが、すごい量の車が走っていたり、夜でもバーでは音楽が大音量で流れていたりと全体的に雰囲気圧に圧倒されたのを覚えています。タイの第一印象は「賑やかな国だな」でした。

今回初めて日本以外のアジアの国に行き、日本にはないパワフルさを肌で感じました。想像以上に急激に都市化が進んでいるバンコクや、自然と都会が混同したチェンマイ、黄金に輝く寺院など様々なものからタイのパワーを感じました。高速道路から見たバンコクは今まで想像していたタイのイメージとは全く違い、もしかして東京よりも都会なのでは？と思うほどでした。しかし、高層ビルの足元にはまだまだ貧しい家が見えたり、歩いてみれば物乞いをする人が道端に座っていたり、とてもギャップを感じる光景でした。

一方、私たちがタイで交流させていただいたタイの人たちは親切で穏やかだと感じました。チェンマイやバンコクの学校の学生、現地スタッフの EDF の方々、アンケート調査に協力してくれた人たち。みんなよそ者である私たちをととても歓迎して向かい入れてくれました。そこで感じたのは、タイ人と日本人は少し雰囲気が似ていて、親しみやすい人たちであるということです。現地の学校では、バディの子たちが様々な形でもてなしてくれ、自らの文化や生活のことを教えてくれました。自分たちの国の文化に誇りを持っているように感じました。

私が始めに感じたタイの「賑やか」な印象は、急速な発展とタイ独特の文化とそれを営んでいるタイの人々によってつくられていたのだと思います。このタイ・プログラムで、日々変化している今しか見ることができないタイの姿を見ることができました。しかし一方で、発展したとしても昔ながらのタイの人たちの生活や文化は消えないでほしいとも感じました。タイに行き、私たち日本人は新しいものにばかり興味を持ち、昔ながらの伝統や習慣がなくなりつつあると強く感じました。私たちにたくさんのタイの文化や食べ物、仏教のことを教えてくれた子どもたちの様子が消えないでほしいと強く思いました。

出会いと成長

中橋 遼大

私がこのタイ・プログラムに参加した大きな理由は、大学に入ったからには今までの自分を変えてみたいと思ったからです。高校まで、私は自分の好きな事には堂々として意見をたくさん言えたが、それ以外では、緊張をして失敗を恐れるばかりで、あまり意見を言えませんでした。そんな自分を変えたくて、いろんな人と出会い、交流できるこのプログラムに参加しました。

最初の方は当然緊張して意見を言えずにいましたが、いざ一步を踏み出し意見を言ってみるとみんなが反応してくれる様子に、「自分は何に怯えていたんだ。」と自分があほらしく思えました。また、皆と一緒に活動していく中で、言葉にして伝えることの大切さが、とても身に染みて分かりました。また、交流企画の班長をやらせてもらったおかげで、意見のまとめ方や一つの企画を作り上げるのに必要な時間と苦勞を知りました。一方で、皆で企画を作り上げる楽しさ、企画を実施して子供たちに楽しんでもらえた感動を知れたのは、今後、私の将来に大きく貢献すると思います。

タイに到着して待っていたのは、さらなる素晴らしい出会いでした。タイでは、高校生・中学生の子供たちと一緒に英語を用い交流しました。私は英語が苦手だということを伝え、子供たちの方から積極的にゆっくりとした英語で話しかけてくれました。私が聞き取れなくても、嫌な顔せず何度も何度も伝えてくれて、本当に嬉しかったことを私は今でも覚えています。この子供たちのおかげで、私は英語に対する印象が苦手から楽しいに変えることができ、英語を真剣に勉強したいと思いました。また、思い出に深く残る子供たちとの交流により、人と交流することは、『心が温かくなること』だと改めて気づかされました。

私はこのタイ・プログラムを通じて、新しくモノや人に出会い、その出会いによって自分自身がとても成長できました。今の自分があるのは、いろんな人やモノとの出会いがあるからだということを忘れずに、今後も新たな出会いを探しに行きたいと思います。このような機会を設けていただいたタイの学校の皆様、藤山先生、TAのおふたりには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。9期のタイプロメンバーも出会ってくれて本当にありがとう。

可能性

長谷川 夏芽

私はタイ・プログラムの活動を通して様々なことを学びました。私には夢や目標がなかったので、何か1つでも特別な経験をしたいと思いこのプログラムに参加しました。メンバーのみんなは自分の考えや明確な目標を持っている人ばかりで、ちゃんとついていけるのか渡航までの期間は不安でいっぱいでした。日々の話し合いや企画書の作成では、つまずいてばかりで投げ出したくなる時もありました。しかし会議でいろんな意見をもらい、自分だけでは解決できないことが解決でき、いろんな考え方をもった人たちが集まって話し合う面白さを知りました。現地で実際に活動するのは更に難しいことでしたが、みんなで協力して成功した時は今まで感じたことのない達成感を味わえました。

渡航の中で最も思い出に残っているのは学生との交流やホームステイです。言葉が通じず困ったときもありましたが、英語が話せなくてもジェスチャーや表情でコミュニケーションがとれたときは、とても感動しました。それと同時に自分の英語力の無さを痛感し、勉強のモチベーションが上がりました。

渡航が終わってから夢や目標を見つけられたかという、そうではありません。しかし、渡航前には夢や目標がないことを不安に思っていた気持ちが渡航後には無くなりました。それは、個性豊かなタイプロメンバーと一緒に貴重な経験をしたことで、夢がないぶん可能性がたくさんあるということに気づけたからです。タイ・プログラムに参加して本当に良かったです。関わってくれた全ての人に感謝！！

私はタイ・プログラムに参加をして大きな成長を遂げることができました。タイ・プログラムに参加をすることができて本当に良かったと思います。なぜなら、このプログラムを通して自分自身を見直し、他者と協働する力を身に付けることができたからです。また、実際に体験をすることでタイのことを肌で感じることもできました。

渡航前の事前学習では、1 から企画を計画し実行するためにどうすればよいのかを考えました。メンバーみんなで知恵を絞りだし、より良いものを作り上げることの大変さやそれに加えやりがいというものを強く感じました。渡航中はすべてが初めてのことで、自分自身に吸収できるものが数多くありました。初めて訪れる場所で臨機応変に対応する力を養い、初めて出会う人と交流するうえで言語が異なる中伝えようとする気持ちがあればコミュニケーションをとることができるということを学びました。また、TP9 期メンバーがこの16 人で本当によかったなと心から思います。個性豊かな16 人が集まったからこそ TP9 期しか作り上げることができないタイ・プログラムを作り上げることができたのではないかと思います。タイ・プログラム当初は、このメンバーで今まで8 期までの先輩方が作り上げてきたタイ・プログラムを作り上げることができるのか正直不安でした。しかし共に過ごす時間が長くなればなるほど、互いのことを理解しようという思いが強くなり、いつしかこのメンバーならこれまでのタイ・プログラムを超えられるのではないかという自信に変わりました。私は、どんなことにも真剣に取り組み、笑顔が絶えない TP9 期のメンバーのことが大好きです。この関係をここで終わらせるのではなく、これからも互いに高めあう関係でありたいです。

また、藤山先生や TA のお二人には本当にお世話になりました。TP9 期は三人が側で支えてくださったからこそ成長することができたと思います。全員に対して感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

VISION ・ MISSION 達成報告

事前事後研修・渡航というタイ・プログラムの活動の中で、私達が自分で設定した VISION と MISSION (P6 参照) をどの程度達成できたかを報告する。

では、まず VISION と MISSION の再確認をする。

【VISION】 「『楽しかった！』だけで終わらせない！」

【MISSION】 ①何でも学び吸収する。

②意見が一方通行にならないようにキャッチボールするコミュニケーション。

③途中であきらめない、やりきることを大切に。

VISION は最終目的であるため、MISSION から振り返っていく。

MISSION①何でも学び吸収する。

達成度 86% 新しいものに積極的に挑戦し、全力でタイを感じ、異文化を受け入れていた。

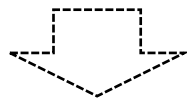
MISSION②意見が一方通行にならないようにキャッチボールするコミュニケーション。

達成度 78% お互いの意見を受け入れることは出来たが、どうしても聞き手になって会話が一方通行になることが多かった。より活発にお互いが意見をぶつけられるとさらによかった。

MISSION③途中であきらめない、やりきることを大切に。

達成度 92% 全員が最後の最後まで企画・渡航を成功させたいという気持ちを持っていたから、みんなで協力でき、諦めずにやり遂げることができた。

※各項目最高を 100%として自己評価の達成度をアンケートし集計した。



VISION 「『楽しかった！』だけで終わらせない！」

達成度 82%

現地の方との交流、企画、調査などから、意見を発信し受け入れる力、目的に沿って物事を計画し実行する力、自分たちで課題を見つける力など、タイプロでしか学べない新しい発見が常に『楽しかった！』の裏にあったように感じる。渡航中は『楽しかった！』に走り気味だったこともあり、目的地の情報をもう少し詳しく調べ、調査的な視点を持てば、より中身の濃い活動が出来たのではないかと考える。今はこの学びを具体的にどのように成長につなげていくのか、『楽しかった！』を次につなげようとしている段階である。タイ・プログラムで培った行動力やモチベーションを忘れず、多くのことに興味を持ちながら挑戦していこうと思う。

終わりに

この度はタイ・プログラム9期の報告書を最後まで読んでいただきありがとうございます。この報告書がすべてではありませんが、少しでもタイ・プログラムについて知っていただけたなら嬉しいです。タイ・プログラムは事前学習、渡航、事後学習と約一年間を通じて本当に充実したプログラムです。

事前学習では主に渡航に向けて準備しました。一週間に1回の普段の会議に加え、合宿を行ったり、また空きコマや昼休憩に集まったりして、常にタイ・プログラムのことを考えているという状況でした。また、渡航直前期には準備しなければならないことがたくさんあり、ほぼ毎日メンバーと会っていました（笑）。忙しかったですが渡航を良いものにするために、メンバー全員で協力し取り組んだことで頑張れたのかなと思います。

また渡航では本当に良い経験をたくさんできました。百聞は一見に如かずというように、実際にタイに行くことによってタイについてより知ることができました。旅行ではおそらく行かなかったチェンマイの良さをたくさん知ることができたし、なによりチェンマイで見た星空は一生忘れないと思います。（TP9 インスタグラム参照）そしてタイの人と交流することによってタイの人と友達になることができるのもこのプログラムの特徴です。普通の旅行では外国の人と友達になるということは難しいと思います。今でも連絡を取り合ったりして、本当に良い出会いだったと思います。

最後に事後学習では、主に報告書完成に向けてみんなで議論しあいました。今年は新型コロナウイルスの影響で会議がすべてオンラインになってしまいました。実際に会って話し合うことができなかったのも、最初はてこずりました。対面ではない発言しにくい環境だったので、やりにくさはありませんでしたが、最後の方ではうまくオンラインに対応できていたかなと思います。苦難はいろいろありましたが無事に報告書を完成することができて本当に良かったと思います。

このように事前学習、渡航、事後学習とタイ・プログラムはとても充実したプログラムです。少しでもタイ・プログラムの良さを感じていただけたでしょうか？やはり、タイ・プログラムの一番の良さは「出会い」だと思います。先ほどタイの人の友達ができるという話をしましたが、それだけでなくタイ・プログラムと一緒にやり遂げた大切な仲間ができます。学部もそれぞれ違うところから集まっているので良い刺激にもなり、志の高い人たちがばかりなので自分も頑張ろうと思えます。本当にタイ・プログラムでのすべての出会いに感謝しています。

タイ・プログラム9期代表 戸田 達也

編集後記

システム工学部 戸田 達也

この度は、報告書をご覧いただきありがとうございます。この報告書は私たちが事前講義、渡航、事後講義で活動してきた集大成ですので少しでもタイ・プログラムについてわかっていただけたら幸いです。その中でも私が読んでいただきたいのが「思い出すごろく」です。思い出すごろくは他とは違いポップな感じで読みやすく、スケジュール順で書かれているので渡航やプログラムの流れがつかみやすいと思います。また、すごろく形式になっているので、ぜひとも遊んでいただけたらと思います。どの企画も私たちがたくさん議論して作成した報告書なので、次の10期のみんなの役に立てれば嬉しいです。

観光学部 竹中 杏由紀

今回この報告書が完成したことでタイ・プログラム9期の活動を記録に残せたという嬉しさはもちろんですが、同時にタイ・プログラム9期の活動が終わってしまったのかという寂しさもあります。渡航を終えて報告書の完成に向けて慣れないオンラインで会議をし、みんなで意見を言い合ったあの時間がとても愛おしいです。そんな時間をかけて作ったこの報告書が、次のタイ・プログラムメンバーにとって良いプログラムを作る手助けになることと、私達自身がこの報告書を読み返すことで今回の経験を糧にそれぞれがステップアップできることを願っています。

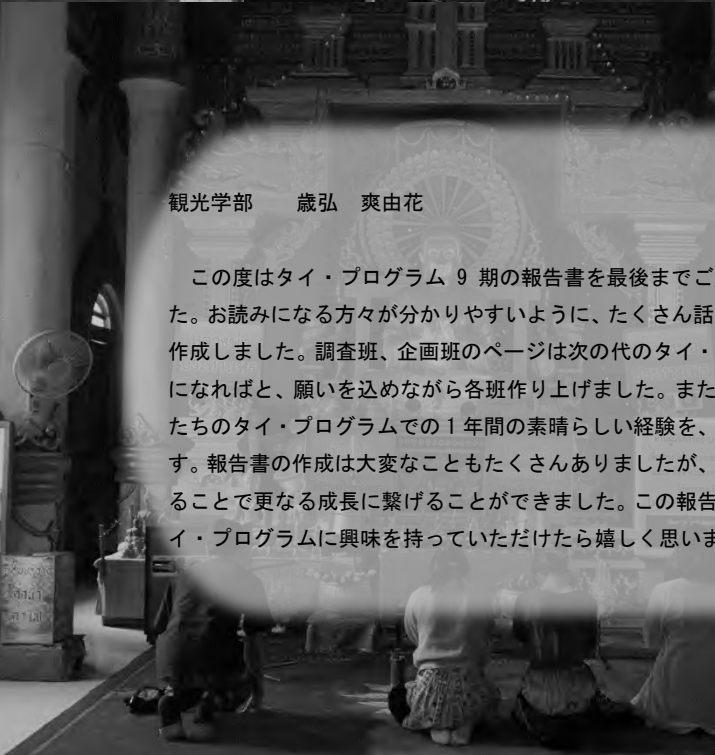
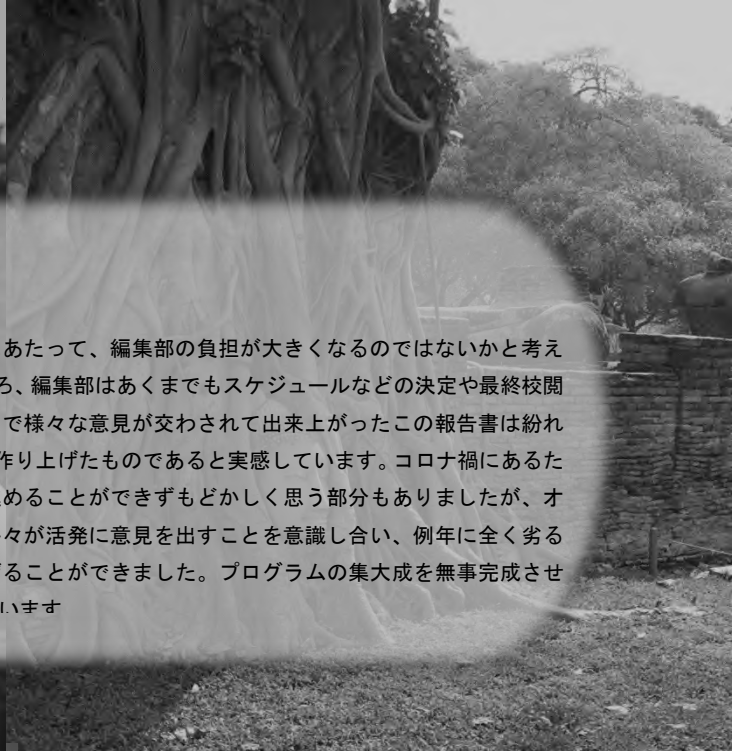
観光学部 為沢 友月

今回、私たちの報告書をご覧いただきありがとうございます。この1年間のタイ・プログラムでの活動や学んできたことが綴られていると共に、9期の想いが詰まっている報告書となっています。報告書は、自らの経験を自分たちで留めずに多くの方々に伝えるために作成しました。至らない点多々あるかと思いますが、皆で精一杯残したものを受け取っていただけたらと思います。編集に携わることでより良い経験が出来ました。ありがとうございました。



観光学部 田岸 来実

当初私は報告書を作成するにあたって、編集部の負担が大きくなるのではないかと考えていました。しかし実際のところ、編集部はあくまでもスケジュールなどの決定や最終校閲を行っただけであり、会議の中で様々な意見が交わされて出来上がったこの報告書は紛れもなくタイ・プログラム9期で作り上げたものであると実感しています。コロナ禍にあるため対面で報告書の作成作業を進めることができずもどかしく思う部分もありましたが、オンラインという状況の中でも各々が活発に意見を出すことを意識し合い、例年に全く劣ることのない質で報告書を仕上げることができました。プログラムの集大成を無事完成させることができ、非常に嬉しく思います。



観光学部 歳弘 爽由花

この度はタイ・プログラム9期の報告書を最後までご覧いただきありがとうございました。お読みになる方々が分かりやすいように、たくさん話し合いを重ねながらこの報告書を作成しました。調査班、企画班のページは次の代のタイ・プログラム参加者の皆さんの参考になればと、願いを込めながら各班作り上げました。また、思い出すごろくのページでは私たちのタイ・プログラムでの1年間の素晴らしい経験を、皆さんにも共有できればと思います。報告書の作成は大変なこともたくさんありましたが、自分たちの経験をアウトプットすることで更なる成長に繋げることができました。この報告書を読んだ多くの方が、タイやタイ・プログラムに興味を持ってくれたら嬉しく思います。ありがとうございました。



経済学部 中橋 遼大

私は報告書の編集を通じて、今までのタイ・プログラムをより一層振り返ることができました。そして、タイ・プログラムを通して学んだことをより深くアウトプットできたことはとても良かったです。この報告書は、タイ・プログラム9期である16人の学部が異なる学生達が学んだことの集大成です。そのため、この報告書を読んで、タイ・プログラムの魅力がより多くの人々に伝わってほしいと思います。



TP9

書日報告

